

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	コリツカガクホクジン カガワガク 国立大学法人 香川大学									
フリガナ大学の名称	カガワガクガクイン 香川大学大学院 (Graduate School, Kagawa University)									
大学本部の位置	香川県高松市幸町1番1号									
大学の目的	世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。									
新設学部等の目的	子どもの発達に関する確かな知見、教育に関わる確かな専門性に立脚した分析力・構想力や、新しくかつ複合的な学校課題や教育課題を括り出して対象化し、協働的な実践・省察をもとに組織的に対応できる実践力を、教育実践現場をフィールドとした実践的研究による理論と実践の往還を通して育成し、教員集団と学校全体を質の高い組織として高めていくことに貢献できる教員を養成することをめざす。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	教職大学院	
	教育学研究科 高度教職実践専攻 【Graduate School of Education, Course for Teaching Professionals】	2年	20人	—年次人	40人	教職修士（専門職） 【Master of Education (Professionals)】	令和2年4月第1年次	香川県高松市幸町1番1号		
計			20	—	40					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>教育学研究科（修士課程）（専攻の廃止）</p> <p>学校教育専攻（△12）</p> <p>教科教育専攻（△18）</p> <p>学校臨床心理専攻（△7）</p> <p>※令和2年4月学生募集停止</p> <p>医学系研究科（修士課程）</p> <p>臨床心理学専攻（10）（平成31年3月意見伺い）</p>									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	教育学研究科 高度教職実践専攻	講義	演習	実験・実習	計	47単位				
		0科目	40科目	19科目	59科目					
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		平成31年4月事前伺い 平成31年3月意見伺い
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	教育学研究科 高度教職実践専攻 （専門職学位課程）	20人 (20)	17人 (17)	0人 (0)	0人 (0)	37人 (37)	0人 (0)	47人 (47)		
	医学系研究科 臨床心理学専攻 （修士課程）	6人 (6)	4人 (4)	1人 (1)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	8人 (8)		
計		26人 (26)	21人 (21)	1人 (1)	0人 (0)	48人 (48)	0人 (0)	55人 (55)		

教 員	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員 等	
		教授	准教授	講師	助教	計		
	法学研究科	18	5	0	0	23	0	0
	法学専攻 (修士課程)	(19)	(6)	(0)	(0)	(25)	(0)	(0)
	経済学研究科	28	20	0	0	48	0	0
	経済学専攻 (修士課程)	(28)	(22)	(0)	(0)	(50)	(0)	(0)
	医学系研究科	11	4	1	10	26	0	0
	看護学専攻 (修士課程)	(11)	(4)	(1)	(10)	(26)	(0)	(0)
	医学専攻 (博士課程)	44	34	9	0	87	0	0
		(44)	(34)	(9)	(0)	(87)	(0)	(0)
	工学研究科	9	3	4	2	18	0	0
	安全システム建設工学専攻 (博士前期課程・博士後期課程)	(9)	(3)	(4)	(2)	(18)	(0)	(0)
	信頼性情報システム工学専攻 (博士前期課程・博士後期課程)	13	9	3	2	27	0	0
		(13)	(9)	(3)	(2)	(27)	(0)	(0)
	知能機械システム工学専攻 (博士前期課程・博士後期課程)	11	4	3	1	19	0	0
	(11)	(4)	(3)	(1)	(19)	(0)	(0)	
	材料創造工学専攻 (博士前期課程・博士後期課程)	11	2	2	1	16	0	0
		(11)	(2)	(2)	(1)	(16)	(0)	(0)
	農学研究科	27	20	0	4	51	0	13
	応用生物・希少糖科学専攻 (修士課程)	(32)	(22)	(0)	(5)	(59)	(0)	(13)
	地域マネジメント研究科	9	3	0	0	12	0	0
	地域マネジメント専攻 (専門職学位課程)	(8)	(4)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)
既	図書館	1	0	0	0	1	0	0
		(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)
組	四国危機管理教育・研究・地域連携推進機	1	0	0	0	1	0	0
		(2)	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)
織	国際希少糖研究教育機構	0	0	0	0	0	0	6
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(6)
設	大学教育基盤センター	2	6	1	0	9	0	0
		(2)	(6)	(1)	(0)	(9)	(0)	(0)
分	アドミッションセンター	0	1	0	0	1	0	0
		(1)	(1)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)
の	学生支援センター	0	0	1	0	1	0	0
		(0)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)
概	キャリア支援センター	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
要	地域連携・生涯学習センター	1	1	0	0	2	0	0
		(1)	(1)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)
	四国グローバルリーガルセンター	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	総合生命科学研究センター	0	0	0	0	0	0	5
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(7)
	微細構造デバイス統合研究センター	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	瀬戸内圏研究センター	0	0	0	0	0	0	1
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)
	総合情報センター	0	0	0	0	0	0	3
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)
	産学連携・知的財産センター	0	1	0	0	1	0	0
		(0)	(1)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)
	インターナショナルオフィス	1	2	0	0	3	0	0
		(1)	(2)	(0)	(0)	(3)	(0)	(0)
	保健管理センター	1	1	1	0	3	0	0
		(1)	(1)	(1)	(0)	(3)	(0)	(0)
	計	188	116	25	20	349	0	28
		(195)	(122)	(25)	(21)	(363)	(0)	(31)
要	合 計	214	137	26	20	397	0	83
		(220)	(144)	(26)	(21)	(411)	(0)	(86)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		300 (304)	342 (342)	642 (646)				
	技 術 職 員		876 (876)	335 (335)	1,211 (1,211)				
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)	0 (0)	10 (10)				
	そ の 他 の 職 員		19 (21)	85 (85)	104 (106)				
	計		1,205 (1,211)	762 (762)	1,967 (1,973)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地の内、 10,148㎡を香川 県より借用（毎 年更新）			
	校 舎 敷 地	165,625㎡	0㎡	0㎡	165,625㎡				
	運 動 場 用 地	80,981㎡	0㎡	0㎡	80,981㎡				
	小 計	246,606㎡	0㎡	0㎡	246,606㎡				
	そ の 他	704,405㎡	0㎡	0㎡	704,405㎡				
	合 計	951,011㎡	0㎡	0㎡	951,011㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	170,034㎡ (170,034㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	170,034㎡ (170,034㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	98室	91室	668室	8室 (補助職員 0人)	2室 (補助職員 2人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		教育学研究科高度教職実践専攻		31 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体	
	教育学研究科 高度教職実践専攻	868,430 [268,272] (868,430 [268,272])	25,545 [7,342] (25,545 [7,342])	5,566 [4,180] (5,566 [4,180])	9,120 (9,120)	0 (0)	1,033 (1,033)		
	計	868,430 [268,272] (868,430 [268,272])	25,545 [7,342] (25,545 [7,342])	5,566 [4,180] (5,566 [4,180])	9,120 (9,120)	0 (0)	1,033 (1,033)		
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 (運動場：うち6面 は附属学校に設置、 テニスコート：うち 4面は附属学校、3面 は学生寄宿舎に設 置)			
	11,506㎡	966席		1,104,000冊					
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	5,577㎡	野 球 場 1 面 テニスコート 21 面							
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
	教員1人当り研究費等		-	-	-	-	-	-	
	共同研究費等		-	-	-	-	-	-	
	図書購入費		-	-	-	-	-	-	
	設備購入費		-	-	-	-	-	-	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		-							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	香川大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	教育学部	年	人	年次 人	人		倍		
	学校教育教員養成課程	4	160	-	640	学士(教育学)	1.03	平成15年度	香川県高松市幸町1 番1号
	人間発達環境課程	4	-	-	-	学士(教養学)	-	平成15年度	
	法学部 (昼夜開講制)						1.04		
	法学科(昼)	4	150	3年次10	620	学士(法学)	1.08	平成15年度	香川県高松市幸町2 番1号
法学科(夜)		10	-	40		0.55	平成15年度		
								上段は昼間コー ス、下段は夜間 主コース	

既設大学等の状況	大学の名称		香川大学						所在地		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
	経済学部 (昼夜開講制)						1.02				上段は昼間コース、下段は、夜間主コース
	経済学科(昼)	4	240	3年次20	480	学士(経済学)	1.03	平成30年度	香川県高松市幸町2番1号		
	(夜)		10	—	20		0.75	平成30年度			
	経済学科(昼)	4	—	—	—	学士(経済学)	—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
	(夜)		—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
	経営システム学科(昼)	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
	(夜)		—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
	地域社会システム学科(昼)	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
	(夜)		—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
	医学部						1.00				
	医学科	6	109	2年次5	679	学士(医学)	1.00	平成15年度		香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	平成21年・22・24・25・30年度入学定員増による学年進行
	看護学科	4	60	3年次10	260	学士(看護学)	1.04	平成15年度			
	臨床心理学科	4	20	—	40	学士(臨床心理学)	1.00	平成30年度			
	創造工学部						1.03				
	創造工学部	4	330	3年次20	660	学士(工学)	1.03	平成30年度	香川県高松市林町2217番地20		
	工学部										
	安全システム建設工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
	電子・情報工学科	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
	知能機械システム工学科	4	—	—	—		—	平成15年度		平成30年より学生募集停止	
	材料創造工学科	4	—	—	—		—	平成15年度	平成30年より学生募集停止		
	農学部						1.03				
	応用生物科学科	4	150	—	600	学士(農学)	1.03	平成18年度	香川県木田郡三木町大字池戸2393番地		
	教育学研究科 (修士課程)						0.51				
	学校教育専攻	2	12	—	24	修士(教育学)	0.58	平成15年度	香川県高松市幸町1番1号		
	教科教育専攻	2	18	—	36		0.52	平成15年度			
	学校臨床心理専攻 (専門職学位課程)	2	7	—	14		0.35	平成15年度			
	高度教職実践専攻	2	14	—	28	教職修士(専門職)	1.17	平成28年度			
	法学研究科 (修士課程)						0.87				
	法律学専攻	2	8	—	16	修士(法学)	0.87	平成15年度	香川県高松市幸町2番1号		
	経済学研究科 (修士課程)						0.60				
	経済学専攻	2	10	—	20	修士(経済学)	0.60	平成15年度	香川県高松市幸町2番1号		

既設大学等の状況	大学の名称	香川大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	医学系研究科 (修士課程)						0.65		香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	平成28年より学生募集停止 平成28年より学生募集停止 平成28年より学生募集停止
	看護学専攻	2	16	—	32	修士(看護学)	0.65	平成15年度		
	(博士課程)						1.12			
	医学専攻	4	30	—	120	博士(医学)	1.12	平成28年度		
	機能構築医学専攻	4	—	—	—		—	平成15年度		
	分子情報制御医学専攻	4	—	—	—		—	平成15年度		
	社会環境病態医学専攻	4	—	—	—		—	平成15年度		
	工学研究科 (博士前期課程)							1.34	香川県高松市林町2217番地20	
	安全システム建設工学専攻	2	18	—	36	修士(工学)	0.63	平成15年度		
	信頼性情報システム工学専攻	2	24	—	48		1.20	平成15年度		
	知能機械システム工学専攻	2	18	—	36		1.80	平成15年度		
	材料創造工学専攻	2	18	—	36		1.80	平成15年度		
	(博士後期課程)						0.46			
	安全システム建設工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.60	平成16年度		
	信頼性情報システム工学専攻	3	7	—	21		0.14	平成16年度		
	知能機械システム工学専攻	3	5	—	15		0.93	平成16年度		
	材料創造工学専攻	3	5	—	15		0.33	平成16年度		
	農学研究科 (修士課程)							0.91	香川県木田郡三木町大字池戸2393番地	平成30年より学生募集停止 平成30年より学生募集停止
	応用生物・希少糖科学専攻	2	60	—	120	修士(農学)	0.91	平成30年度		
	生物資源生産学専攻	2	—	—	—		—	平成18年度		
生物資源利用学専攻	2	—	—	—		—	平成18年度			
地域マネジメント研究科 (専門職学位課程)							0.93	香川県高松市幸町2番1号		
地域マネジメント専攻	2	30	—	60	経営修士(専門職)	0.93	平成16年度			
附属施設の概要	<p>名称：附属高松小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学的研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県高松市番町5-1-55 設置年月：昭和24年5月 規模等：7,374.7㎡、建物面積：4,077.59㎡</p> <p>名称：附属坂出小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学的研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県高松市番町5-1-55 所在地：香川県坂出市文京町2-4-2 設置年月：昭和24年5月 規模等：4,713.87㎡、建物面積：2,377.22㎡</p> <p>名称：附属高松中学校 目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学的研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県高松市鹿角町394 設置年月：昭和26年6月 規模等：5,482.22㎡、建物面積：3,526.60㎡</p>									

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：附属坂出中学校 目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県坂出市青葉町 1-7 設置年月：昭和 24 年 5 月 規模等：4,912.86㎡、建物面積：2,753.95㎡</p> <p>名称：附属特別支援学校 目的：知的障害者に対して小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を行い、あわせてその能力に応じて社会的自立に必要な知識・技能を授けることを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県坂出市府中町綾坂 889 設置年月：昭和 50 年 4 月 規模等：3,501.46㎡、建物面積：2,165.93㎡</p> <p>名称：附属幼稚園 目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、学部・大学院等における研究に協力し、及び学部の計画に従い学生の教育実地研究実施にあたることを目的とする。 所在地：香川県坂出市文京町 1-9-4 設置年月：昭和 24 年 5 月 規模等：768.58㎡、建物面積：621.22㎡</p> <p>名称：附属幼稚園高松園舎 目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、学部・大学院等における研究に協力し、及び学部の計画に従い学生の教育実地研究実施にあたることを目的とする。 所在地：香川県高松市番町 5-1-55 設置年月：昭和 51 年 4 月 規模等：431.8㎡、建物面積：431.8㎡</p> <p>名称：附属教職支援開発センター 目的：実践的指導力の向上及び教職支援体制の充実のため、学部と附属学校園、香川県教育委員会等地域社会の教育関係諸機関と連携・協働して、実地教育、教職支援及び教育開発の推進的役割を果たすことを目的とする。 所在地：香川県高松市幸町 1-1 設置年月：平成 27 年 4 月 規模等：539.09㎡、建物面積：182.37㎡</p> <p>名称：特別支援教室「すばる」 目的：①発達障害児（特別な教育的支援を必要とする子ども）の保護者や担任に対する相談と指導助言、②発達障害児への個に応じた指導・支援、③保護者や教員、各学校の特別支援教育コーディネーターへの研修、④地域における特別支援教育の推進方策に関する研究など、これらの事業を通じて地域における特別支援教育の充実に寄与することを目的とする。 所在地：香川県坂出市青葉町 2-7 設置年月：平成 15 年 4 月 規模等：742.21㎡、建物面積：385.42㎡</p> <p>名称：香川大学瀬戸内圏研究センター庵治マリンステーション 目的：瀬戸内圏研究の推進を行うとともに、学生の実験、実習指導を行うことを目的とする。 所在地：香川県高松市庵治町鎌野 4511-15 設置年月：平成 21 年 4 月 規模等：488.6㎡、建物面積：248.98㎡</p> <p>名称：香川大学総合生命科学研究センター R I 実験施設 目的：放射性同位元素による実験・研究・教育を行うことを目的とする。 所在地：香川県木田郡三木町池戸 1750-1 設置年月：平成 6 年 2 月 規模等：423.9㎡、建物面積：148.13㎡</p> <p>名称：香川大学総合生命科学研究センター 動物実験施設 目的：実験動物の飼育管理、系統維持、開発等を行う。 所在地：香川県木田郡三木町池戸 1750-1 設置年月：昭和 61 年 3 月 規模等：2116.58㎡、建物面積：699.9㎡</p>	
----------------	---	--

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：香川大学総合生命科学研究センター 遺伝子実験施設 目的：ゲノム情報科学、組換えDNA実験、その他の遺伝子実験に関する研究及び教育を行う。 所在地：香川県木田郡三木町池戸2393 設置年月：平成13年3月 規模等：1513.2㎡、建物面積：387.71㎡</p> <p>名称：香川大学希少糖研究センター 目的：生産方法、生理機能、用途などの研究がほとんど進んでいない「希少糖」に関する独自の研究を進展させるとともに、外部機関との共同研究を推進することにより、地域の科学技術の発展と産業の振興に寄与し、希少糖に関する情報の収集・発信及び教育研究の充実を目的とする。 所在地：香川県木田郡三木町池戸2393 設置年月：平成15年10月 規模等：300.79㎡、建物面積：300.79㎡</p> <p>名称：香川大学図書館 目的：学部・研究科が集めた膨大な量の学術資料や研究成果を地域の生涯学習資料として公開することを目的とする。 所在地：高松市幸町1-1 設置年月：昭和45年3月 規模等：7301.09㎡、建物面積：1804.79㎡</p> <p>名称：香川大学博物館 目的：香川大学の教育・研究において蓄積された標本、資料、発明品などの知的財産を収集、保管、展示し、地域の自然や文化に関して交流を広げ、香川大学と地域との連携を深めることを目的とする。 所在地：高松市幸町1-1 設置年月：平成20年3月 規模等：245.00㎡、建物面積：245.00㎡</p> <p>名称：香川大学総合情報センター 目的：学内情報基盤担当組織の役割を担うと共に、先進的な教育・研究拠点として大学と地域社会に貢献することを目的とする。 所在地：高松市幸町1-1 設置年月：昭和49年3月 規模等：958.46㎡、建物面積：350.89㎡</p> <p>名称：香川大学保健管理センター 目的：学生及び教職員の心身の健康増進や健康管理を目的とする。 所在地：高松市幸町1-1 設置年月：昭和43年3月 規模等：399.19㎡、建物面積：399.19㎡</p> <p>名称：香川大学医学部附属病院 目的：良質な医療の提供、医学教育・研究の推進 所在地：香川県木田郡三木町池戸1750-1 設置年月：昭和58年4月 規模等：71,200.87㎡、建物面積：22,201.01㎡</p> <p>名称：香川大学農学部附属農場 目的：学生への農場実習教育と教職員の研究及び栽培された作物の市場での販売等経営を行うことを目的としている。 所在地：さぬき市昭和字谷乙300番地2 設置年月：昭和44年3月 規模等：6,552.24㎡、建物面積：5,790.05㎡</p>	
----------------	--	--

香川大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
香川大学				香川大学				
教育学部		3年次		教育学部		3年次		
学校教育教員養成課程	160	-	640	学校教育教員養成課程	160	-	640	
法学部		3年次		法学部		3年次		
法学科(昼間コース)	150	10	620	法学科(昼間コース)	150	10	620	
(夜間主コース)	10	-	40	(夜間主コース)	10	-	40	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済学科(昼間コース)	240	20	1,000	経済学科(昼間コース)	240	20	1,000	
(夜間主コース)	10	-	40	(夜間主コース)	10	-	40	
医学部		2年次		医学部		2年次		
医学科	109	5	609	医学科	95	5	595	(※定員:政策に伴う増減あり)
		3年次				3年次		
看護学科	60	10	260	看護学科	60	10	260	
臨床心理学科	20	-	80	臨床心理学科	20	-	80	
創造工学部		3年次		創造工学部		3年次		
創造工学科	330	20	1,360	創造工学科	330	20	1,360	
農学部		3年次		農学部		3年次		
応用生物科学科	150	-	600	応用生物科学科	150	-	600	
計	1,239	5 3年次 60	5,249	計	1,225	5 3年次 60	5,235	
香川大学大学院				香川大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
学校教育専攻(M)	12	-	24		0	-	0	平成32年4月学生募集停止
教科教育専攻(M)	18	-	36		0	-	0	平成32年4月学生募集停止
学校臨床心理専攻(M)	7	-	14		0	-	0	平成32年4月学生募集停止
高度教職実践専攻(P)	14	-	28	<u>高度教職実践専攻(P)</u>	<u>20</u>	-	<u>40</u>	研究科の専攻の設置(事前伺)
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻(M)	8	-	16	法律学専攻(M)	8	-	16	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	-	20	経済学専攻(M)	10	-	20	
医学系研究科				医学系研究科				
看護学専攻(M)	16	-	32	看護学専攻(M)	16	-	32	
医学専攻(4年制D)	30	-	120	医学専攻(4年制D)	30	-	120	
				<u>臨床心理学専攻(M)</u>	<u>10</u>	-	<u>20</u>	研究科の専攻の設置(意見伺)
工学研究科				工学研究科				
安全システム建設工学専攻(M)	18	-	36	安全システム建設工学専攻(M)	18	-	36	
信頼性情報システム工学専攻(M)	24	-	48	信頼性情報システム工学専攻(M)	24	-	48	
知能機械システム工学専攻(M)	18	-	36	知能機械システム工学専攻(M)	18	-	36	
材料創造工学専攻(M)	18	-	36	材料創造工学専攻(M)	18	-	36	
安全システム建設工学専攻(D)	5	-	15	安全システム建設工学専攻(D)	5	-	15	
信頼性情報システム工学専攻(D)	7	-	21	信頼性情報システム工学専攻(D)	7	-	21	
知能機械システム工学専攻(D)	5	-	15	知能機械システム工学専攻(D)	5	-	15	
材料創造工学専攻(D)	5	-	15	材料創造工学専攻(D)	5	-	15	
農学研究科				農学研究科				
応用生物・希少糖科学専攻(M)	60	-	120	応用生物・希少糖科学専攻(M)	60	-	120	
地域マネジメント研究科				地域マネジメント研究科				
地域マネジメント専攻(P)	30	-	60	地域マネジメント専攻(P)	30	-	60	
計	305		692	計	<u>284</u>		<u>650</u>	

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																		
(教育学研究科高度教職実践専攻)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通科目	教育課程の編成実施に関する領域	カリキュラム編成の理論と香川の教育	1前	2				○		2					兼1	オムニバス・共同(一部)		
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	教材研究・開発とICT活用による授業改善	1後		2				○		1					兼2	オムニバス・共同(一部)	
		指導法分析と学習支援	1前		2				○			2					共同	
		学習上のつまずき・困難の指導	休		2				○		2	2					オムニバス・共同(一部)	
	生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の理論と実際	1前		2				○		2	1					オムニバス・共同(一部)	
		道徳教育の実践研究	1後		2				○		1	1					オムニバス・共同(一部)	
		発達支援を視点とした教育とアセスメント	1前		2				○		2					兼1	共同	
	学級経営及び学校経営に関する領域	自律的学校経営と学校組織	1前		2				○		3						オムニバス・共同(一部)	
		学級経営実践研究	1後		2				○		2	1				兼1	オムニバス・共同(一部)	
	学校教育と教員の在り方に関する領域	開かれた学校づくりと多職種連携	1前		2				○		3						オムニバス・共同(一部)	
		学校教育の役割と教員のライフステージ	1後		2				○		3						共同	
	研究倫理に関する領域	教育実践研究における研究倫理	1前	1					○		1						単独	
	小計(12科目)	—	3	20	0			—		11	5	0	0	0	5			
共通する実習	探究実習(学校力開発)	1・2前		2				○		4	7							
	探究実習(授業力開発)	1・2前		2				○		12	13							
	探究実習(特別支援力開発)	1・2前		2				○		4	2							
	小計(3科目)	—	0	6	0			—		20	17	0	0	0	0			
学校力開発コース	道徳教育と学校経営実践研究	1後		2				○		2	1					兼1	オムニバス・共同(一部)	
	学校におけるリーダーシップと組織論	1後		2				○		3	2						オムニバス・共同(一部)	
	校内研修と人材育成	1後		2				○		3							オムニバス・共同(一部)	
	学校組織における生徒指導と教育相談	1前		2				○		2	2					兼1	オムニバス・共同(一部)	
	学校の危機管理研究Ⅰ：校内体制づくり	休		1				○		4	2						オムニバス・共同(一部)	
	学校の危機管理研究Ⅱ：個別事例研究	休		1				○		4	2						共同	
	教職実践研究Ⅰ(学校力開発)	1前		2				○		4	2							
	教職実践研究Ⅱ(学校力開発)	1後		2				○		4	2							
	実習	学校臨床実習Ⅰ(学校力開発)	1前		2				○		4	2						
		学校臨床実習Ⅱ(学校力開発)	1後		2				○		4	2						
		学校力開発実習Ⅰ	1・2前		2				○		4	2						
		学校力開発実習Ⅱ	1・2後		2				○		4	2						
	小計(12科目)	—	0	22	0			—		5	2	0	0	0	2			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
授業力開発コース	子ども理解と学習指導	1・2前		2				○		3						オムニバス・共同(一部)	
	授業研究の実際	1・2後		2				○		2	1					共同	
	道徳授業の実践研究	1・2前		2				○		1	1					オムニバス・共同(一部)	
	教科の本質と内容構成	1・2前		2				○		10	7					共同	
	教科横断的教育内容と教科学習	1・2後		2				○		11	7					共同	
	教材研究の理論と動向	1・2前		2				○		11	6				兼41	共同	
	教材開発の実際と評価	1・2後		2				○		11	6				兼41	共同	
	教職実践研究Ⅰ(授業力開発)	1・2前		2				○		12	13						
	教職実践研究Ⅱ(授業力開発)	1・2後		2				○		12	13						
	実習	学校臨床基礎実習Ⅰ(授業力開発)	1前		2				○		12	13					
		学校臨床基礎実習Ⅱ(授業力開発)	1後		2				○		12	13					
		学校臨床実習Ⅰ(授業力開発)	1前		2				○		12	8					
		学校臨床実習Ⅱ(授業力開発)	1後		2				○		12	8					
		授業力開発実習Ⅰ	1・2前		2				○		12	8					
		授業力開発実習Ⅱ	1・2後		2				○		12	8					
	小計(15科目)	—	0	30	0			—		13	13	0	0	0	41		
特別支援力開発コース	心理検査の理論と実際	1・2前		2				○		1	1					共同	
	個別の指導計画と個に応じた支援	1・2前		2				○		1					兼1	共同	
	行動困難と社会性の指導	1・2後		2				○		2						オムニバス・共同(一部)	
	特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用	1・2後		2				○		2						共同	
	言語コミュニケーションの指導	1・2後		2				○		1					兼1	共同	
	特別支援教育のための生理・病理	1・2後		2				○							兼1	単独	
	特別支援教育の理論と実践	1・2前		2				○		4	1					共同	
	障害に対する心理学的理解と支援	1・2後		2				○		1	1					共同	
	特別支援教育の支援技術	1・2前		2				○		1					兼1	共同	
	教職実践研究Ⅰ(特別支援力開発)	1・2前		2				○		4	2						
	教職実践研究Ⅱ(特別支援力開発)	1・2後		2				○		4	2						
	実習	学校臨床基礎実習Ⅰ(特別支援力開発)	1前		2				○		4	2					
		学校臨床基礎実習Ⅱ(特別支援力開発)	1後		2				○		4	2					
		学校臨床実習Ⅰ(特別支援力開発)	1前		2				○		4	2					
		学校臨床実習Ⅱ(特別支援力開発)	1後		2				○		4	2					
		特別支援教育指導実習Ⅰ	1・2前		2				○		4	1					
		特別支援教育指導実習Ⅱ	1・2後		2				○		4	1					
	小計(17科目)	—	0	34	0			—		4	2	0	0	0	3		
合計(59科目)		—	3	112	0					20	17				兼47		
学位又は称号		教職修士(専門職)			学位又は学科の分野			教員養成関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
共通科目6領域から各領域最低1科目ずつ選択し、計19単位以上修得すること。実習以外のコース科目として、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ(4単位)を含み、所属するコースの領域から7科目14単位(学校力開発コースは8科目14単位)を履修し、計18単位以上(他コースのコース科目を含めることができる)を修得すること。実習科目として、各コースの標準履修もしくは現職教員学生履修が定めるところの各科目10単位を修得すること。合計47単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:53単位(年間))									1学年の学期区分		2学期						
									1学期の授業期間		15週						
									1時限の授業時間		90分						

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																	
(教育学研究科高度教職実践専攻)【既設分】																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	基礎5領域	カリキュラム編成の理論と香川の教育	1	2				○		3					兼担1	共同	
		教材研究・開発とICT活用による授業改善	1		2				○		2					兼担2	共同
		指導法分析と学習支援	1		2				○		1	1				兼担1	共同
		生徒指導と教育相談の理論と実際	1		2				○		2	1					共同
		道徳教育の実践研究	1		2				○		2	1					共同
		自律的学校経営と学校組織	1		2				○		3						共同
		学級経営実践研究	1		2				○		1	1				兼担1	共同
		開かれた学校づくりと校内支援体制	1		2				○		3						共同
		学校教育の役割と教員のライフステージ	1		2				○		4						共同
	小計(9科目)	—	2	16				—		9	2				兼担5	—	
	独自2領域	発達支援を視点とした教育と医療	1		2				○		2					兼担1	分担
		教科学習でのつまずき・困難への指導	1		2				○		2					兼担2	分担
		発達と学力のアセスメント	1		2				○		2						分担
		教育実践研究における研究倫理	1	1					○		2						分担
小計(4科目)	—	1	6				—		5					兼担3	—		
共通実習科目	学校臨床基礎実習Ⅰ	1	2					○	3	4						共同	
	学校臨床基礎実習Ⅱ	1	2					○	3	4						共同	
	小計(2科目)	—	4					—	3	4				0	—		
学校力開発領域科目	演習科目	学級経営・学年団経営の組織論	1・2		2				○		1	1				兼担1	共同
		校内研修と力量形成	1・2		2				○		3						共同
		道徳教育と学校経営実践研究	1・2		2				○		2	1				兼担1	共同
		学校改善とリーダーシップ	1・2		2				○		3						共同
		教職実践研究Ⅰ(学校力開発)	2		2				○		3	1					共同
		教職実践研究Ⅱ(学校力開発)	2		2				○		3	1					共同
	小計(6科目)	—		12				—		4	1				兼担2	—	
	実習科目	学校臨床実習Ⅰ(学校力開発)	1	2					○	3	1						共同
		学校臨床実習Ⅱ(学校力開発)	1	2					○	3	1						共同
		探究実習(学校力開発)	2	2					○	3	3						共同
学校力開発実習Ⅰ		2	2					○	3	1						共同	
学校力開発実習Ⅱ	2	2					○	3	1						共同		
小計(5科目)	—	10					—	3	3				0	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
授業力開発領域科目	演習科目	子ども理解と学習指導	1・2	2			○		3						共同
		授業研究の実際	1・2	2			○		3	1					共同
		教材開発の理論と実践	1・2	2			○		3	1					共同
		道徳授業の実践研究	1・2	2			○		2	1					共同
		教科の本質と授業開発	1・2	2			○		2						共同
		教職実践研究Ⅰ（授業力開発）	2	2			○		3	4					共同
		教職実践研究Ⅱ（授業力開発）	2	2			○		3	4					共同
	小計（7科目）	—		14			—		4	4				0	—
	実習科目	学校臨床実習Ⅰ（授業力開発）	1	2				○	4	1					共同
		学校臨床実習Ⅱ（授業力開発）	1	2				○	4	1					共同
		探究実習（授業力開発）	2	2				○	4	3					共同
		授業力開発実習Ⅰ	2	2				○	4	1					共同
		授業力開発実習Ⅱ	2	2				○	4	1					共同
		小計（5科目）	—	10				—	4	3					0
特別支援教育コーディネーター領域科目	演習科目	心理検査の理論と実際	1	2			○		1					兼任1	共同
		個別の指導計画と個に応じた支援	1	2			○		2						共同
		行動困難と社会性の指導	1	2			○		2						分担
		特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用	1	2			○		2						共同
		教職実践研究Ⅰ（特別支援教育）	2	2			○		4						共同
		教職実践研究Ⅱ（特別支援教育）	2	2			○		4						共同
	小計（6科目）	—		12			—	4						兼任1	—
	実習科目	学校臨床実習Ⅰ（特別支援教育）	1	2				○	4						共同
		学校臨床実習Ⅱ（特別支援教育）	1	2				○	4						共同
		探究実習（特別支援教育）	2	2				○	4						共同
		特別支援教育指導実習Ⅰ	2	2				○	4					兼任1	共同
		特別支援教育指導実習Ⅱ	2	2				○	4					兼任1	共同
	小計（5科目）	—	10	0	0		—	4	0	0	0	0	兼任1	—	
合計（49科目）		—	37	60	0		—	11	4	0	0	0	兼任10	—	
学位又は称号	教職修士（専門職）		学位又は学科の分野			教員養成関係									
修了要件及び履修方法							授業期間等								
共通科目7領域から最低1科目・2単位（研究倫理に関する領域については1単位）ずつ選択し、計21単位以上修得すること。実習以外の領域科目として、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ（4単位）を含み、所属するコースの領域から最低6科目・12単位を履修し、計16単位以上を修得すること。実習科目として、各コースの標準履修もしくは現職教員学生履修が定めるところの各科目10単位を修得すること。履修登録上限単位数は、年間50単位である。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学研究科高度教職実践専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（5領域）	教育課程の編成・実施に関する領域	<p>学習指導要領における教育課程の基準、編成・実施についての方針を再確認するとともに、近年の法整備や学校現場の状況を理解し、特色ある学校づくりの基盤となるカリキュラムの基本的な理論について学修する。香川県の具体的な事例（小中一貫校、コミュニティースクール、研究開発校等）も取り上げ、実際にカリキュラム開発を行う際の実践上のポイントや学校経営の視点から教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりについても学修する。なお、必要に応じて学校を訪問し、教育課程と教育実践の実際を参観する機会を授業に位置付ける。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>39. 山岸知幸／共同15回 ・教育課程の基準、編成・実施についての重要なポイントを再確認し、近年の法整備や学校現場の状況を理解し、特色ある学校づくりの基盤となるカリキュラムの基本的な理論について解説する。 ・単独でカリキュラム編成等の理論的な解説を行う。 ・30. 野村一夫、31. 津山勝義との共同により、香川県の具体的な事例を取り上げ、実際にカリキュラム開発を行う際の実践上のポイントや学校経営の視点から教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりについて具体的に整理することを通して多面的に理解できるようにも演習を行う。</p> <p>30. 野村一夫／共同10回 ・香川県の特色ある小学校のカリキュラムを取り上げて、その特色や教育計画を支える教育課程について解説する。その際に、関係する香川県の教育計画や施策についても開設する ・39. 山岸知幸、31. 津山勝義との共同により、香川県の具体的な事例を取り上げ、実際にカリキュラム開発を行う際の実践上のポイントや学校経営の視点から教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりについて具体的に整理することを通して多面的に理解できるようにも演習を行う。</p> <p>31. 津山勝義／共同10回 ・香川県の特色ある中学校のカリキュラムを取り上げて、その特色や教育計画を支える教育課程について解説する。その際に、関係する香川県の教育計画や施策についても開設する。 ・39. 山岸知幸、30. 野村一夫との共同により、香川県の具体的な事例を取り上げ、実際にカリキュラム開発を行う際の実践上のポイントや学校経営の視点から教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりについて具体的に整理することを通して多面的に理解できるようにも演習を行う。</p>	オムニバス・共同（一部）
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	<p>「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った教材開発の考え方や技法（ICT活用を含む）を学び、学校現場の授業改善をリードしていくための資質能力を養うことを目的とする。新たな価値創造を担う次世代の日本の若者たちの育成は喫緊の課題である。高等学校教育にアクティブラーニングの普及は必至である。その基盤として、小中学校においても「主体的・対話的で深い学び」を企図した授業を広めていかねばならない。基礎基本の習得を基盤に、学年段階に相応しい主体的な学習、グループ学習、協同学習を構想・実践・省察する力は、これからの教員に不可欠な資質能力である。これは、児童生徒の学習意欲を格段に高める方法ともなる。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>7. 野崎武司／単独9回、共同6回 ・単独で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。新しい学びの考え方や教材開発演習、授業のユニバーサルデザインと教材開発演習、協同学習と教材開発演習、模擬授業実践と省察。 ・57. 宮崎英一と共同で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。タブレット端末の授業活用法、タブレット端末を活用した授業開発演習。 ・82. 松下幸司と共同で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。電子黒板の授業活用法、教材開発を活用した授業開発演習。</p> <p>57. 宮崎英一／共同3回 ・7. 野崎武司と共同で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。タブレット端末の授業活用法、タブレット端末を活用した授業開発演習。</p> <p>82. 松下幸司／共同3回 ・7. 野崎武司と共同で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。電子黒板の授業活用法、教材開発を活用した授業開発演習。</p>	オムニバス・共同（一部）
	指導法分析と学習支援	<p>指導法と学習支援に関する専門性と実践力の向上を目的として、①子ども理解の理論と方法、②教授法や動機づけに関する理論と方法、③教育評価や授業評価などの評価法に関する理論と方法、④実践研究の理論と方法、そして、⑤授業研究や研究協議の理論と実践、等について学修する。そのために、講義形式を基本としながらも、テーマに応じてグループ学習や模擬授業を取り入れながら学ぶ。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>20. 岡田 涼／共同15回 ・24. 大熊裕樹と共同で「子ども理解の理論と方法」「教授法や動機づけに関する理論と方法」「教育評価や授業評価などの評価法に関する理論と方法」「実践研究の理論と方法」「授業研究や研究協議の理論と実践」を担当する。</p> <p>24. 大熊裕樹／共同15回 ・20. 岡田 涼と共同で「子ども理解の理論と方法」「教授法や動機づけに関する理論と方法」「教育評価や授業評価などの評価法に関する理論と方法」「実践研究の理論と方法」「授業研究や研究協議の理論と実践」を担当する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教科等の実践的な指導方法に関する領域	学習上のつまずき・困難への指導	<p>発達障害児が示す学習の困難とそれに対する指導法について理解する。個に応じた支援の在り方、適応的な行動や技能の習得を援助する支援の枠組みについて理解する。国語科教育学の視点より、日本語の文字体系に関する理解を基盤として、読み書き困難と原因に応じた指導方法について理解する。数学科教育学の視点より、基本的教処理・数概念のつまずき、四則演算や筆算、文章題の指導などに関して理解する。保健体育科教育学の視点より、感覚運動機能、姿勢やパランスの保持、協調運動や運動企画の困難とそれらの指導に関して理解する。</p> <p>分担方式／全15回</p> <p>16. 武蔵博文／単独2回、共同3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個の特性に応じた支援の必要性、通常の学級の現状と、教科学習の場面で生じる学習面・行動面のつまずきについて説明する。 ・自尊心を高めるための社会的機会や役割の設定、望ましい行動の習得と定着のための支援について説明する。 <p>8. 佐藤明宏／単独2回、共同2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科教育学の視点より、教科学習の際にみられる「読む・書く」の困難、読み書き能力の評価方法、読み書きのつまずきの原因と原因に応じた指導方法及び指導教材について解説する。指導の実際について具体例をあげながら説明する。 <p>29. 松島充／単独2回、共同1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学科教育学の視点より、教科学習の際にみられる「計算する・推論する」の困難、数概念・演算・文章題の評価、それらのつまずきの原因と原因に応じた指導方法及び指導教材について解説する。指導の実際について具体例をあげながら説明する。 <p>20. 米村耕平／単独2回、共同1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科教育学の視点より、発達障害児にみられる感覚運動機能のつまずきについて、観察の視点と方法、つまずきの要因の分析、体育の授業や学校生活への影響について解説する。感覚運動面の指導を通して、感覚刺激の受容を促進し、適応反応としての運動反応を引き出すことを説明する。 	オムニバス・共同（一部）
	生徒指導と教育相談の理論と実際	<p>生徒指導と教育相談に関する理論を学び、実践事例を通じて理解を深める。まず、生徒指導の意義と役割を、いじめや不登校、非行等の個々の教育臨床的諸問題を通じて学ぶ。次に、子どもの理解を深めることやカウンセリング（教育相談）について学習し、教育相談を行う際のアセスメントの意義と活用について知る。最後に、実践事例をとりあげてグループディスカッションを行い、それまでに学んだ事柄の理解を確かなものにする。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>3. 宮前義和／単独3回、共同6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解を深めることやカウンセリング（教育相談）について解説する。 ・23. 山本木ノ実との共同により、教育相談を行う際のアセスメントの意義と活用について説明する。 ・4. 金網知征、23. 山本木ノ実との共同により、実践事例をとりあげて、グループディスカッションを行う。 <p>4. 金網知征／単独3回、共同6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の意義と役割について解説する。 ・23. 山本木ノ実との共同により、いじめや不登校、非行等の個々の教育臨床的諸問題について説明する。 ・3. 宮前義和、23. 山本木ノ実との共同により、実践事例をとりあげて、グループディスカッションを行う。 <p>23. 山本木ノ実／共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4. 金網知征との共同により、いじめや不登校、非行等の個々の教育臨床的諸問題について説明する。 ・3. 宮前義和との共同により、教育相談を行う際のアセスメントの意義と活用について説明する。 ・4. 金網知征、3. 宮前義和との共同により、実践事例をとりあげて、グループディスカッションを行う。 	オムニバス・共同（一部）
共通科目（5領域）	生徒指導及び教育相談に関する領域	<p>道徳教育の改革や社会のモラル低下等の背景を踏まえて、「特別の教科 道徳」に関する答申や学習指導要領の改訂を確認しながら、道徳教育の意義と求められる役割並びに具体的な改善点等について理解する。さらに、学習指導要領の変遷を押さえるとともに、香川県道徳教育研究会等における実践の変遷を具体的な事例や資料を基に整理して理解する。その際に、道徳教育と学校教育目標や道徳の時間との関係について、単時間構想、繰り返し主題構想、大主題構想等の実践事例をもとに学ぶ。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>22. 植田和也／単独5回、共同7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生きる社会のモラルとマナーの低下に関して、各種の調査データや県教委が掲げる教育課題等と関連させながら解説したり、グループ討議を取り入れて背景について整理する。 ・学校教育目標と道徳教育目標の関連について、事例を示しながら、その実際について解説する。 ・道徳教育と道徳の時間について、全体計画や年間指導計画を比較しながら、その意義や活用等について解説する。 ・4. 金網知征と協働して、全体計画や年間指導計画の作成手順、香川県の多様な道徳教育の取組や変遷について紹介するだけでなく、各自の調べたことを発表させ、グループ討議を行い、意味づけや価値づけを行う。 <p>4. 金網知征／単独3回、共同7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の動向と課題、道徳教育の意義と役割について、過去の答申や学習指導要領改訂の動きを踏まえたうえで解説する。特に「特別の教科 道徳」に関する答申や学習指導要領の内容を確認しながら、道徳教育の意義と求められる役割並びに具体的な改善点等について理解できるように解説する。 ・22. 植田和也と協働して、全体計画や年間指導計画の作成手順、香川県の多様な道徳教育の取組や変遷について紹介するだけでなく、各自の調べたことを発表させ、グループ討議を行い、意味づけや価値づけを行う。 	オムニバス・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生徒指導及び教育相談に関する領域	発達支援を視点とした教育とアセスメント	<p>発達支援の視点について学び、発達の普遍性と個性の理解に基づいた教育とアセスメントのあり方について理解する。メインテーマの一つは、人間発達を踏まえたうえで、特別支援教育の来るべきシステムについて考えることである。特別支援教育の理念とシステム、歴史的展開について理解する。もう一つは、通常の学級における特別支援教育のためのアセスメントの意義と目的について理解することである。子どもの実態および状態把握の方法として、面接、行動観察、質問紙法、心理検査の各方法について理解する。特に、発達障害における認知特性の評価について理解し、課題の間違い分析等を基に基本的な学習能力と学力のつまずきに関する評価に焦点を当てるとともに、行動面についてのアセスメントに基づいた支援と校内外の連携など、通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズがある児童生徒への包括的な支援に必要となる総合的解釈について学ぶ。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>2. 惠羅修吉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級における特別支援教育において必要な心理アセスメントの基礎知識を説明する。 ・学力の状態把握について、具体的な方法と留意点について説明する。 ・23. 山本木ノ実、42. 小方朋子と協働して事例をあげてグループ演習を行う。 <p>23. 山本木ノ実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校におけるアセスメントの具体的な内容と行動観察の方法について説明する。 ・児童生徒のつまずきを想定し、通常の学級における授業のユニバーサルデザインについて説明する。 ・児童生徒の支援と校内および関係機関との連携の在り方について説明する。 ・2. 惠羅修吉、42. 小方朋子と協働して事例をあげてグループ演習を行う。 <p>42. 小方朋子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理念とシステムについて説明する。 ・特別支援教育に至る史的展開について説明する。 ・2. 惠羅修吉、23. 山本木ノ実と協働して事例をあげてグループ演習を行う。 	共同
	自律的学校経営と学校組織	<p>自律的学校経営の意義と必要性について具体的な事例をもとに理解する。小学校あるいは中学校が有している学校組織の特性について具体的な事例をもとに理解する。学校組織における協働の実践について具体的な事例をもとに理解する。小学校あるいは中学校での協働を支える教員の専門性について具体的な事例をもとに理解する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>1. 柳澤良明／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律的学校経営の意義と必要性について具体的な事例をもとに説明する。 ・学校組織における協働の実践について具体的な事例をもとに説明する。 ・30. 野村一夫および31. 津山勝義と共同して、受講生が収集した事例をもとに、学校組織における協働の在り方について討議を行う。 <p>30. 野村一夫／共同10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校が有している学校組織の特性について具体的な事例をもとに説明する。 ・小学校での協働を支える教員の専門性について具体的な事例をもとに説明する。 ・1. 柳澤良明と共同して、受講生が収集した事例をもとに、学校組織における協働の在り方について討議を行う。 <p>31. 津山勝義／共同10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校が有している学校組織の特性について具体的な事例をもとに説明する。 ・中学校での協働を支える教員の専門性について具体的な事例をもとに説明する。 ・1. 柳澤良明と共同して、受講生が収集した事例をもとに、学校組織における協働の在り方について討議を行う。 	オムニバス・共同（一部）
学級経営及び学校経営に関する領域	学級経営実践研究	<p>学級経営の目的と方法を踏まえ、学級集団の理解とその中での個々の成長発達を視野に入れた準拠集団の形成過程について理解する。また、学級経営の在り方について実践事例を基に検証するとともに、その評価についても検討する。さらに、学級における危機管理の在り方を実践的な視点から考察する。</p> <p>共同方式/全15回</p> <p>4. 金網知征／共同11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の意義や目的について解説する。 ・学級集団の理解とその中での個々の成長発達を視野に入れた準拠集団の形成過程について解説する。また、学級経営の評価と方法について、解説するとともに実践事例をもとに検討する。 ・6. 毛利猛、22. 植田和也と協働して、実践事例を基に、学級経営の在り方について討議し検討する。 <p>6. 毛利猛／共同2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の内容や指導の方法について解説する。 ・4. 金網知征、22. 植田和也と協働して、実践事例を基に、学級経営の在り方について討議し検討する。 <p>65. 大久保智生／共同2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の評価と方法について解説するとともに、実践事例をもとに評価の在り方について検討する。 <p>22. 植田和也／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営における危機管理の在り方について、実践的な視点から考察する。 ・6. 毛利猛、4. 金網知征と協働して、実践事例を基に、学級経営の在り方について討議し検討する。 	オムニバス・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（5領域）	学校教育と教員の在り方に関する領域 開かれた学校づくりと多職種連携	<p>開かれた学校づくりが求められる背景および理由について理解する。学校評議員制度、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）、学校関係者評価制度、学校支援地域本部・地域学校協働活動の現状と課題について具体的な事例をもとに理解する。開かれた学校づくりの実践課題について具体的な事例をもとに理解する。開かれた学校における多職種連携の実践課題について具体的な事例をもとに理解する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>1. 柳澤良明／共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりが求められる背景および理由について説明する。 学校評議員制度、学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）、学校関係者評価制度、学校支援地域本部・地域学校協働活動の現状と課題について具体的な事例をもとに説明する。 30. 野村一夫、3. 宮前義和と共同して、受講生が収集した事例をもとに、開かれた学校づくりの実践課題および開かれた学校づくりにおける多職種連携の実践課題について具体的な事例をもとに討議を行う。 <p>30. 野村一夫／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりの現状と課題について具体的な事例をもとに説明する。 1. 柳澤良明、3. 宮前義和と共同して、受講生が収集した事例をもとに、開かれた学校づくりの実践課題および開かれた学校づくりにおける多職種連携の実践課題について具体的な事例をもとに討議を行う。 <p>3. 宮前義和／単独6回、共同3回</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員、事務職員、学校司書、ICT支援員などとの、開かれた学校における多職種連携およびその実践課題について具体的な事例をもとに説明する。 1. 柳澤良明、30. 野村一夫と共同して、受講生が収集した事例をもとに、開かれた学校づくりの実践課題および開かれた学校づくりにおける多職種連携の実践課題について具体的な事例をもとに討議を行う。 	オムニバス・共同（一部）
	学校教育の役割と教員のライフステージ	<p>学校教育と教員のあり方について、①香川県の学校教育の役割と課題、②子どもの資質・能力の形成と教師の関わり、③教員としてのライフステージの形成、等について学修する。そのために、講義形式とともに、テーマに応じたグループ学習やラウンド・テーブル形式などによる討議を取り入れながら学ぶ。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>7. 野崎武司／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体を統括し、「子どもの資質・能力の形成と教師の関わり」において主担当となる。 <p>30. 野村一夫／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に「香川県の学校教育の役割と課題」において主担当となる。 <p>31. 津山勝義／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 主に「教員としてのライフステージの形成」において主担当となる。 	共同
共通科目（独自領域）	研究倫理に関する領域 教育実践研究における研究倫理	<p>大学院での教育研究において、また学校現場での教育研究において求められる研究倫理について理解を深めることを目的とする。実践的な問題状況において適切に倫理的判断を下すための演習を行う。</p> <p>3. 宮前義和／単独8回</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業全体を統括するとともに、単独回において、教育実践研究における研究倫理を概括する。 4回分は、「APRIN eラーニングプログラム（eAPRIN）」を活用する。 	単独

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	探究実習（学校力開発）	<p>附属学校において集中型実習として履修する。研究推進校特有の学校経営上の諸課題を理解し、効果的な学校経営のノウハウを学び、校務分掌等に効果的に参画する。また附属学校教員の指導の観察実習を通して、配属の学部生の校務分掌への効果的な参画について支援する。スクールリーダーあるいはミドルリーダーとしての役割を意識するとともに、初任者や若年教員を育てる指導の在り方や方法を探究する。</p> <p>巡回指導：4. 金網知征、1. 柳澤良明、6. 毛利猛、17. 宮前淳子、30. 野村一夫、31. 津山勝義 実習指導：32. 橘慎二郎、33. 片岡重貴子、34. 太田隆志、35. 大和田俊、37. 桑原育子</p> <p>・巡回指導：同席・付き添いあるいは定期的な面談により、参観、体験・参加、陪席について助言・指導する。 ・実習指導：実習において、スクールリーダーとしての関わり方について指導する。</p>	
共通する実習	探究実習（授業力開発）	<p>[学部卒学生履修] 附属学校において集中型実習として履修する。授業力向上につながる構想力、実践力、省察力を一層みがくとともに、授業実践記録を通して客観的に分析できる力量が高められる演習を核とする。さらに、組織の活性化をいかに図るかについて、附属学校教員・大学教員も交えてリフレクションの多様な在り方について、運営しながら学ぶ機会とする。</p> <p>[現職教員学生履修] 附属学校において集中型実習として履修する。研究推進校としての授業研究の課題を理解し、授業研究に参画する。また附属学校教員の指導の観察実習を通して、担当学級配属の学部生の授業づくりや学級経営を焦点に、指導助言する。ミドルリーダーとしての役割を意識するとともに、初任者や若年教員を育てる指導の在り方や方法を追究する。</p> <p>巡回指導：7. 野崎武司、22. 植田和也、27. 久米亜弥、24. 大熊裕樹、8. 佐藤明宏、9. 山本茂喜、28. 中住幸治、18. バテン、29. 松島充、25. 鈴木正行、10. 伊藤裕康、11. 笠潤平、12. 松村雅文、19. 吉川暢子、13. 岡田知也、14. 黒田勉、15. 妹尾理子、20. 米村耕平、21. 岡田涼、26. 片岡元子 実習指導：32. 橘慎二郎、33. 片岡重貴子、34. 太田隆志、35. 大和田俊、37. 桑原育子</p> <p>・巡回指導：同席・付き添いあるいは定期的な面談により、参観、体験・参加、陪席について助言・指導する。 ・実習指導：実習において、児童生徒の様子の把握・関わり方や授業への参画の仕方について指導する。</p>	
	探究実習（特別支援力開発）	<p>前期を通して、相手先機関に合わせ随時実施する。附属特別支援学校で、知的障害児に対する生徒指導、授業の様子を参観して、支援環境の改善、支援の手立ての工夫、指導者の指導や援助の方法について学ぶ。発達障害外来のある医療機関、相談支援にあたる支援センター等での診察や相談の様子を知り、教育機関とは異なる立場の様子を知り、協同連携の在り方、ネットワークの築き方等の実践力の向上を図る。</p> <p>巡回指導：16. 武藏博文、2. 惠羅修吉、3. 宮前義和、23. 山本木ノ実、5. 中島栄美子 実習指導：36. 藤澤麻子</p> <p>・巡回指導：同席・付き添いあるいは定期的な面談により、参観、体験・参加、陪席について助言・指導する。 ・実習指導：実習において、児童生徒の様子の把握・関わり方や授業への参画の仕方について指導する。</p>	
コース科目	学校力開発コース 道徳教育と学校経営実践研究	<p>道徳教育を効果的に機能させるための管理職や道徳教育推進教師や学年団主任等に求められるマネジメント能力や推進体制の重要性について理解する。また、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、演習等を取り入れながら具体的な道徳教育推進プラン作成を行う。さらに、地域の特色を生かした道徳教育の取り組みを紹介するとともに、郷土の先人やふるさと学習（空海、平賀源内等）を取り入れた事例とその推進のための多様な方法について理解する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>22. 植田和也／共同12回 ・道徳教育推進の具体的な課題を整理するとともに、推進体制の重要性について解説する。各自の調べてきた推進体制や事例について、グループ討議を取り入れて整理する。 ・学校経営と道徳教育目標の関連について、管理職や道徳教育推進教師など、各々の立場から事例を示しながら、その実際について解説する。</p> <p>4. 金網知征、31. 津山勝義と協働して、また、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、演習等を取り入れながら具体的な道徳教育推進プラン作成を行う。さらに、地域の特色を生かした道徳教育の取り組みを紹介するとともに、郷土の先人やふるさと学習（空海、平賀源内等）を取り入れた事例とその推進のための多様な方法について理解する。</p> <p>4. 金網知征／共同13回 ・道徳教育を効果的に機能させるための管理職や道徳教育推進教師や学年団主任等に求められるマネジメント能力に関して、実践事例をもとに改訂の動きを踏まえたうえで解説する。特に推進体制の構築や推進教師の役割についても具体的な事例を参考にしながら、演習を取り入れて手順やポイントを理解できるように解説する。</p> <p>22. 植田和也、31. 津山勝義と協働して、また、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、演習等を取り入れながら具体的な道徳教育推進プラン作成を行う。さらに、地域の特色を生かした道徳教育の取り組みを紹介するとともに、郷土の先人やふるさと学習（空海、平賀源内等）を取り入れた事例とその推進のための多様な方法について理解する。</p> <p>38. 櫻井佳樹／単独1回、 ・学校に多様に定められている目標の意義や理解について解説する。</p> <p>31. 津山勝義／共同13回 ・学校経営の事例を示しながら、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制について紹介する。また、学校経営における定められている願いと道徳教育のねらいとの関係について具体的な取り組み事例をもとに解説する。</p> <p>22. 植田和也、4. 金網知征と協働して、また、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、演習等を取り入れながら具体的な道徳教育推進プラン作成を行う。さらに、地域の特色を生かした道徳教育の取り組みを紹介するとともに、郷土の先人やふるさと学習（空海、平賀源内等）を取り入れた事例とその推進のための多様な方法について理解する。</p>	オムニバス・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 学校力開発コース	学校におけるリーダーシップと組織論	<p>学校教育目標の具現化を目指した組織的な学校経営の在り方と、学校教育目標の達成につながるリーダーシップの在り方について具体事例を基に理解する。またいくつかの教育課題を取り上げ、その解決につながる組織的な学校経営の実践事例についてグループで検証し、自らの課題の達成につながる学校経営案を構想する。さらに、評価検証の在り方についての理解も深める。課題グループ別に協働活動を組織するとともに、個別の課題設定に応じた活動を行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>4. 金網知征／共同 1 1 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1. 柳澤良明、30. 野村一夫と共同で学校教育目標の具現化に向けた組織的な学校経営の定義や意義について解説する。組織的な学校経営の具体事例を用いて課題解決に向けて有機的に機能する組織としての学校の在り方について理解を深める。 ・ 1. 柳澤良明、30. 野村一夫学校教育目標の達成につながるリーダーシップの機能と役割について解説する。学校課題解決の実践事例を用いて組織を有機的に機能させるリーダーシップの在り方について理解を深める。 ・ 担当者全員で共同して学校養育目標の具現化と今日的課題解決に向けたリーダーシップの役割を踏まえた学校経営案を構想する。 <p>1. 柳澤良明／共同 1 0 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4. 金網知征・30. 野村一夫と共同して個々の研究課題と組織的な学校経営との関連について検討する。 ・ 4. 金網知征・30. 野村一夫と共同して個々の研究課題の解決に向けた組織的な学校経営とリーダーシップの役割について検討する。 ・ 担当者全員で共同して学校養育目標の具現化と今日的課題解決に向けたリーダーシップの役割を踏まえた学校経営案を構想する。 <p>6. 毛利猛／共同 6 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 17. 宮前淳子、30. 野村一夫と共同して学校教育目標の具現化に向けた組織的な学校経営の実践事例を検証する。 ・ 担当者全員で共同して学校養育目標の具現化と今日的課題解決に向けたリーダーシップの役割を踏まえた学校経営案を構想する。 <p>17. 宮前淳子／共同8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6. 毛利猛、30. 野村一夫と共同して学校教育目標の具現化に向けた組織的な学校経営の実践事例を検証する。 ・ 30. 野村一夫と共同して今日的課題の解決に向けた組織的な学校経営におけるリーダーシップの役割に関する実践事例を検証する。 ・ 担当者全員で共同して学校養育目標の具現化と今日的課題解決に向けたリーダーシップの役割を踏まえた学校経営案を構想する。 <p>30. 野村一夫／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4. 金網知征、1. 柳澤良明と共同して学校教育目標の具現化に向けた組織的な学校経営の定義や意義について解説する。組織的な学校経営の具体事例を用いて課題解決に向けて有機的に機能する組織としての学校の在り方について理解を深める。 ・ 17. 宮前淳子と共同して今日的課題の解決に向けた組織的な学校経営におけるリーダーシップの役割に関する実践事例を検証する。 ・ 担当者全員で共同して学校養育目標の具現化と今日的課題解決に向けたリーダーシップの役割を踏まえた学校経営案を構想する。 	オムニバス・共同（一部）
	校内研修と人材育成	<p>日本の教員研修のしくみと特質について具体的な事例をもとに理解する。学校ビジョンを実現するために求められる校内研修の在り方について具体的な事例をもとに理解する。個別学校が抱える教育課題に対応できる力量を形成することのできる校内研修の在り方について具体的な事例をもとに理解する。小学校教員および中学校教員の専門性を高める校内研修の在り方について具体的な事例をもとに理解する。校内研修における人材育成について具体的な事例をもとに理解する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>1. 柳澤良明／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の教員研修のしくみと特質について具体的な事例をもとに説明する。 ・ 学校ビジョンを実現するために求められる校内研修および授業研究の在り方について具体的な事例をもとに説明する。 ・ 30. 野村一夫、31. 津山勝義と共同して、受講生が収集した事例をもとに、学校ビジョンを実現するために求められる校内研修の在り方、校内研修における人材育成の在り方について討議を行う。 <p>30. 野村一夫／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校教員の専門性を高める校内研修および授業研究の在り方について具体的な事例について説明する。 ・ 小学校の校内研修および授業研究における人材育成について具体的な事例をもとに説明する。 ・ 1. 柳澤良明、31. 津山勝義と共同して、受講生が収集した事例をもとに、学校ビジョンを実現するために求められる校内研修の在り方、校内研修における人材育成の在り方について討議を行う。 <p>31. 津山勝義／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校教員の専門性を高める校内研修および授業研究の在り方について具体的な事例について説明する。 ・ 中学校の校内研修および授業研究における人材育成について具体的な事例をもとに説明する。 ・ 1. 柳澤良明、30. 野村一夫と共同して、受講生が収集した事例をもとに、学校ビジョンを実現するために求められる校内研修の在り方、校内研修における人材育成の在り方について討議を行う。 	オムニバス・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目	学校組織における生徒指導と教育相談	<p>学校における組織的な生徒指導と教育相談の意義、理念、役割について学び、今日的諸課題に対する実践事例の検証を通して理解を深める。生徒指導においては、いじめやネット問題を中心に、また教育相談においては、不登校や特別の配慮を要する児童生徒への対応を中心に検討し、今日の学校が直面する生徒指導／教育相談上の諸問題への理解とチーム学校による組織的対応について学ぶ。最後に、今後の学校組織における生徒指導及び教育相談の在り方と、チーム学校の理念を踏まえた体制の構築について検討する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>4. 金網知征／共同6回 ・31. 津山勝義と共同して学校組織における生徒指導の意義・理念・役割について理解を深めるとともに、生徒指導の現状と今日的課題への対応について検討する。 ・31. 津山勝義と共同して今日的諸課題における生徒指導の実践事例を検証する。</p> <p>6. 毛利猛／共同1回 ・31. 津山勝義と共同して今日的諸課題における生徒指導の実践事例を検証する。</p> <p>17. 宮前淳子／共同6回 ・31. 津山勝義と共同して学校組織における教育相談の意義、理念、役割について理解を深めるとともに、教育相談の現状と今日的課題への対応について検討する。 ・31. 津山勝義と共同して今日的諸課題における教育相談の実践事例を検証する。</p> <p>65. 大久保智生／共同2回 ・31. 津山勝義と共同して生徒指導と教育相談のためのアセスメントの意義と役割について理解を深める。 ・31. 津山勝義と共同して今日的諸課題における生徒指導の実践事例を検証する。</p> <p>31. 津山勝義／共同15回 ・4. 金網知征と共同して学校組織における生徒指導の意義・理念・役割について理解を深めるとともに、生徒指導の現状と今日的課題への対応について検討する。 ・6. 毛利猛・65. 大久保智生と共同して今日的諸課題における生徒指導の実践事例を検証する。 ・17. 宮前淳子と共同して学校組織における生徒指導の意義・理念・役割について理解を深めるとともに、生徒指導の現状と今日的課題への対応について検討する。 ・17. 宮前淳子と共同して今日的諸課題における教育相談の実践事例を検証する。</p>	オムニバス・共同（一部）
	学校の危機管理研究Ⅰ：校内体制づくり	<p>学校における危機管理と学校安全に関する基本的な考え方について理解する。学校における危機管理を遂行するために取り組むべき諸課題について理解する。学校における危機管理を的確に遂行するための校内体制づくりについて理解する。</p> <p>共同方式／全8回</p> <p>1. 柳澤良明／共同2回 ・学校の危機管理と学校安全の考え方について説明する。 ・30. 野村一夫、31. 津山勝義と共同して、小学校および中学校における学校の危機管理と学校安全の具体的事例について説明する。</p> <p>6. 毛利猛／共同2回 ・学校の危機管理と児童・生徒の安全管理の考え方について説明する。 ・30. 野村一夫、31. 津山勝義と共同して、小学校および中学校における学校の危機管理と児童・生徒の安全管理の具体的事例について説明する。</p> <p>17. 宮前淳子／共同2回 ・学校の危機管理と教職員の連携の考え方について説明する。 ・30. 野村一夫、31. 津山勝義と共同して、小学校および中学校における学校の危機管理と教職員の連携の具体的事例について説明する。</p> <p>4. 金網知征／共同2回 ・学校の危機管理と校内体制づくりの考え方について説明する。 ・30. 野村一夫、31. 津山勝義と共同して、小学校および中学校における学校の危機管理と校内体制づくりの具体的事例について説明する。</p> <p>30. 野村一夫／共同8回 ・1. 柳澤良明、31. 津山勝義と共同して、小学校における学校の危機管理と学校安全の具体的事例について説明する。 ・6. 毛利猛、31. 津山勝義と共同して、小学校における学校の危機管理と児童・生徒の安全管理の具体的事例について説明する。 ・17. 宮前淳子、31. 津山勝義と共同して、小学校における学校の危機管理と教職員の連携の具体的事例について説明する。 ・4. 金網知征、31. 津山勝義と共同して、小学校における学校の危機管理と校内体制づくりの具体的事例について説明する。</p> <p>31. 津山勝義／共同8回 ・1. 柳澤良明、30. 野村一夫と共同して、中学校における学校の危機管理と学校安全の具体的事例について説明する。 ・6. 毛利猛、30. 野村一夫と共同して、中学校における学校の危機管理と児童・生徒の安全管理の具体的事例について説明する。 ・17. 宮前淳子、30. 野村一夫と共同して、中学校における学校の危機管理と教職員の連携の具体的事例について説明する。 ・4. 金網知征、30. 野村一夫と共同して、中学校における学校の危機管理と校内体制づくりの具体的事例について説明する。</p>	オムニバス・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 学校力開発コース	学校の危機管理研究Ⅱ：個別事例研究	<p>学校において想定される各種の危機に対する具体的な対応方法について理解する。学校において想定される各種の危機に対応するための校内体制づくりについて理解する。学校において想定される各種の危機に対応するための関係機関の支援体制について理解する。</p> <p>共同方式／全8回</p> <p>6. 毛利猛／共同2回</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の危機管理と災害対応の考え方について説明する。 30. 野村一夫、31. 津山勝義と共同して、小学校および中学校における学校の危機管理と災害対応の具体的事例について説明する。 <p>17. 宮前淳子／共同2回</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の危機管理と教員のメンタルヘルスの考え方について説明する。 30. 野村一夫、31. 津山勝義と共同して、小学校および中学校における学校の危機管理と教員のメンタルヘルスの具体的事例について説明する。 <p>4. 金網知征／共同2回</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の危機管理といじめ対応の考え方について説明する。 30. 野村一夫、31. 津山勝義と共同して、小学校および中学校における学校の危機管理といじめ対応の具体的事例について説明する。 <p>1. 柳澤良明／共同2回</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の危機管理と関係機関の支援体制の考え方について説明する。 30. 野村一夫、31. 津山勝義と共同して、小学校および中学校における学校の危機管理と関係機関の支援体制の具体的事例について説明する。 <p>30. 野村一夫／共同8回</p> <ul style="list-style-type: none"> 6. 毛利猛、31. 津山勝義と共同して、小学校における学校の危機管理と災害対応の具体的事例について説明する。 17. 宮前淳子、31. 津山勝義と共同して、小学校における学校の危機管理と教員のメンタルヘルスの具体的事例について説明する。 4. 金網知征、31. 津山勝義と共同して、小学校における学校の危機管理といじめ対応の具体的事例について説明する。 1. 柳澤良明、31. 津山勝義と共同して、小学校における学校の危機管理と関係機関の支援体制の具体的事例について説明する。 <p>31. 津山勝義／共同8回</p> <ul style="list-style-type: none"> 6. 毛利猛、30. 野村一夫と共同して、中学校における学校の危機管理と災害対応の具体的事例について説明する。 17. 宮前淳子、30. 野村一夫と共同して、中学校における学校の危機管理と教員のメンタルヘルスの具体的事例について説明する。 4. 金網知征、30. 野村一夫と共同して、中学校における学校の危機管理といじめ対応の具体的事例について説明する。 1. 柳澤良明、30. 野村一夫と共同して、中学校における学校の危機管理と関係機関の支援体制の具体的事例について説明する。 	共同
	教職実践研究Ⅰ（学校力開発）	<p>実習科目「学校力開発実習Ⅰ」において取り組む、実践研究課題の解決プランにもとづく実践の省察を行う。具体的には、置籍校の学校課題を分析するとともに、先行研究を把握し、先進校における取組を検討することをとおして、各自の実践研究課題を設定する。次に、実践研究課題の解決に向けて解決プランを作成し、実践に取り組むとともに、解決プランにもとづく実践を省察する。初回は専攻全体でのオリエンテーションを行い、コースで実践研究課題の設定を行う。その後は各ゼミで解決プランを作成した上、実践の省察を進める。途中、第8回にはコースでの発表・修正の機会を設け、第15回には専攻全体での発表・交流の機会を設ける。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>1. 柳澤良明、4. 金網知征、6. 毛利猛、17. 宮前淳子、30. 野村一夫、31. 津山勝義／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践研究課題に関する先行研究を体系的に分析する。 実践研究課題の解決プランにもとづく実践を的確に整理し記述する。 実践研究課題の解決プランにもとづく実践を客観的に省察する。 実践研究課題の解決プランにもとづく実践について指導教員や他の院生と積極的に議論を行う。 実践研究課題の解決プランにもとづく実践の成果を的確にまとめる。 	
	教職実践研究Ⅱ（学校力開発）	<p>主に、実習科目における学校経営・学級経営に関する実践と学校力開発コースの理論科目をつなぎ、理論と実践の往還から、各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。学校力開発に関わる各自の実践課題について、複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。前期に作成した学校力開発に関わる各自の実践課題についての改善プログラムの実施に関して、実施計画を確認する。実践についての定期的な理論的分析と省察を通して、課題や実施内容の修正を行う。その成果は、中間まとめと最終まとめとして専攻全体の発表会で報告し、最終的には教職実践研究報告としてまとめる。教職実践研究フォーラムへの準備を行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>1. 柳澤良明、4. 金網知征、6. 毛利猛、17. 宮前淳子、30. 野村一夫、31. 津山勝義／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践研究課題の解決プランにもとづく実践を的確に整理し記述する。 実践研究課題の解決プランにもとづく実践を客観的に省察する。 実践研究課題の解決プランにもとづく実践について指導教員や他の院生と積極的に議論を行う。 実践研究課題の解決プランにもとづく実践の成果を的確にまとめる。 実践研究課題の解決プランにもとづく実践の成果を分かりやすく発表する。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学校力開発コース	学校臨床実習Ⅰ（学校力開発）	<p>現代的な学校課題をテーマに、教育現場を臨床的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。学校力開発に資する先進的な取組を行っている学校を訪問し、「学校力」を焦点とした課題解決プランを収集、分析する。模擬的に各自が作成した学校力開発の課題解決プランを研究協力校（置籍校）において提示し、意見交換を行う。これまでの学びや臨床経験、試行実践を踏まえ、課題の解決につながるプランを開発する基礎的な力量の形成を図る。</p> <p>巡回指導：4. 金網知征、1. 柳澤良明、6. 毛利猛、17. 宮前淳子、30. 野村一夫、31. 津山勝義</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。</p>	
	学校臨床実習Ⅱ（学校力開発）	<p>現代的な学校課題をテーマに、教育現場を臨床的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。学校臨床実習Ⅰに引き続き、課題解決プランを収集、分析し、模擬的な学校力開発の課題解決プランに関して議論を深める。これまでの学びや臨床経験、試行実践を踏まえ、課題の解決につながるプランを開発する基礎的な力量の形成を図る。</p> <p>巡回指導：4. 金網知征、1. 柳澤良明、6. 毛利猛、17. 宮前淳子、30. 野村一夫、31. 津山勝義</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。</p>	
	学校力開発実習Ⅰ	<p>置籍校において分散型（一部集中型）実習として履修する。置籍校の学校課題を把握・分析し、その解決に向けて実践研究課題を設定するとともに解決プランを作成する。この解決プランを置籍校において実践するとともに実践の省察を行う。さらに随時、その実践を整理し、発信するとともに、院生間での交流を行う。学期末には、実践成果を整理し、発信・交流を行う。</p> <p>巡回指導：1. 柳澤良明、4. 金網知征、6. 毛利猛、17. 宮前淳子、30. 野村一夫、31. 津山勝義</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。</p>	
	学校力開発実習Ⅱ	<p>置籍校において分散型（一部集中型）実習として履修する。「学校力開発実習Ⅰ」の実践に引き続き、実践研究課題の解決プランを置籍校において実践するとともに実践の省察を行う。さらに随時、その実践を整理し、発信するとともに、院生間での交流を行う。学期末には、実践成果を整理し、その成果をまとめ、『実践研究課題報告書』の原稿を作成するとともに、発信・交流を行う。</p> <p>巡回指導：1. 柳澤良明、4. 金網知征、6. 毛利猛、17. 宮前淳子、30. 野村一夫、31. 津山勝義</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。</p>	
授業力開発コース	子ども理解と学習指導	<p>この授業では、まず、子ども理解を深めるためのアセスメント方法について学ぶ。その際に、的確なアセスメントを支えている研究方法について学習する。そして、子ども理解に関連するテーマを決めて、グループごとに研究方法を用いたレポートを作成し研究方法について体験的に理解する。日頃学習することの少ない研究方法を学ぶことで、何気なく行ってきた子ども理解を見直し、新たな視点で子ども理解について考えられるようにする。次に、学習指導と関連させながら、子どもの学びを読み取るなど、子ども理解の視点を広げて深めるための学習をする。最後に、子ども理解に関して学習してきた事柄と学習指導との関連性について演習を通じて理解を深める。</p> <p>3. 宮前義和／共同3回 単独8回 主に子ども理解の研究方法の概説、研究方法演習を担当する。</p> <p>7. 野崎武司／共同3回 単独4回 主に学びの社会的構成を担当する。</p> <p>22. 植田和也／共同3回 教育実践の見地から、子ども理解と学習指導の関係性について総括する。</p>	オムニバス・共同（一部）
	授業研究の実際	<p>授業研究の基本的な考え方を理解し、校内において効果的な授業研究を実践的に組織していくための資質能力を養うことを目的とする。授業研究を学ぶにあたり、質の高い授業実践記録の読解は不可欠である。それは、授業カンファレンスのプロセスを含めた自らの授業実践記録の作成へとつながるものでなければならない。ここでは、同一単元での授業デザイン・模擬授業・省察のグループ演習を柱にした授業実践記録の作成を主課題とする。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>7. 野崎武司／単独2回、共同13回 ・主に下記の学習活動を行う。授業カンファレンスの意義と方法、授業研究コミュニティの構築の実践事例研究。 ・22. 植田和也、24. 大熊裕樹と共同で、主に次の学習活動を行う。模擬授業と省察のグループ演習、授業実践記録の作成。</p> <p>22. 植田和也／共同13回 ・7. 野崎武司、24. 大熊裕樹と共同で、主に次の学習活動を行う。授業分析の方法論、模擬授業と省察のグループ演習、授業実践記録の作成。</p> <p>24. 大熊裕樹／共同13回 ・7. 野崎武司、22. 植田和也と共同で、主に次の学習活動を行う。授業分析の方法論、模擬授業と省察のグループ演習、授業実践記録の作成。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業力開発コース コース科目	道徳授業の実践研究	<p>道徳授業の形骸化や画一化と言われる背景や子どもたちにとって魅力となる道徳授業の要因を理解するとともに、実践事例等を通して多様な方法の長所や配慮すべき点を検討する。また、「私たちの道徳」や読み物資料、映像資料の特徴と効果的活用や資料分析と授業づくりについて演習を通して理解する。さらに、道徳性の発達理論を理解するとともに、評価に関する課題や具体的な取り組みの事例等をもとに、学校現場においてどのように取り組んでいくべきか検討する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>22. 植田和也／単独4回、共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の実践事例等を通して多様な道徳授業の方法の長所や配慮すべき点を検討する。 ・様々な道徳性の発達理論を解説するとともに、評価に関する課題や具体的な取り組みの事例等をもとに、学校現場においてどのように取り組んでいくべきか検討する。必要に応じて、小中学校の授業研修会に参加して、具体的な指導方法や授業後の協議方法に評価をどのように生かすか等についても実践的な学ぶ場を用意する。 ・24. 大熊裕樹との共同で、「私たちの道徳」や読み物資料、映像資料の特徴と効果的活用や資料分析と授業づくりについて演習を通して理解する。 <p>24. 大熊裕樹／単独2回、共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教材例とともに指導法に関して概説する。 ・22. 植田和也との共同で、「私たちの道徳」や読み物資料、映像資料の特徴と効果的活用や資料分析と授業づくりについて演習を通して理解する。 	オムニバス・共同（一部）
	教科の本質と内容構成	<p>教育学・教科（保育）教育教員の共同による授業である。最新の学習理論、学習方略、学習動機、評価等についての知見を理解し、目指すべき学力とその基盤、見方・考え方の重要性、各教科の本質についてその理論的背景と具体的な事例等について学修する。</p> <p>共同方式／全15回（全体共同9回、グループ別共同5回）</p> <p>29. 松島充・21. 岡田涼・24. 大熊裕樹／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半7回のオリエンテーションと導入の授業を担い、また最後の3回のグループ発表の授業でまとめ役を担う。 ・途中の教科別チームを組織し、チームによる教科の本質の探究を促す。 <p>教科教育（保育）関連専任教員／共同15回</p> <p>10. 伊藤裕康・13. 岡田知也・26. 片岡元子・14. 黒田勉・8. 佐藤明宏・25. 鈴木正行・15. 妹尾理子・12. 松村雅文・9. 山本茂喜・11. 笠潤平・28. 中住幸治・18. バテン・19. 吉川暢子・20. 米村耕平</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全回の授業に参加するとともに、特に教科別チームの担当を分担し、学生の探究を支援する。 	共同
	教科横断的教育内容と教科学習	<p>教科（保育）教育教員と教科内容教員の共同による授業である。持続可能な社会を実現するための現代的課題について、教科横断的なカリキュラムを構成し、各教科（保育）の原理を生かしたアプローチによる見方・考え方を深める教材開発を行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>22. 植田和也・25. 鈴木正行・21. 岡田涼・24. 大熊裕樹／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半2回のオリエンテーションと導入の授業を担い、また最後の2回の成果交流の授業でまとめ役を担う。 ・途中の教科融合型の教材開発チームを組織し、チームによる教材開発を促す。 <p>教科教育（保育）関連専任教員／共同15回</p> <p>10. 伊藤裕康・13. 岡田知也・26. 片岡元子・14. 黒田勉・8. 佐藤明宏・15. 妹尾理子・12. 松村雅文・9. 山本茂喜・11. 笠潤平・28. 中住幸治・18. バテン・19. 吉川暢子・20. 米村耕平・29. 松島充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全回の授業に参加するとともに、特に教科融合型の教材開発チームの担当を分担し、教材開発を支援する。 	共同
	教材研究の理論と動向	<p>教科教育教員と教科内容教員の共同による授業である。教科の本質および、背景となる学問の原理を踏まえた教材研究の動向を探り、教科固有の見方・考え方を深める教材開発の要点を明らかにする。</p> <p>共同方式／全15回（全体共同 4回 教科別共同11回）</p> <p>3. 野崎武司・20. 米村耕平／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半2回のオリエンテーションと導入の授業を担い、また最後の2回の成果交流の授業でまとめ役を担う。 ・途中の教科別チームを組織し、チームによる教材研究を促す。 <p>教科教育（保育）関連専任教員／共同15回</p> <p>21. 岡田涼・8. 佐藤明宏・9. 山本茂喜・29. 松島充・12. 松村雅文・11. 笠潤平・25. 鈴木正行・10. 伊藤裕康・28. 中住幸治・18. バテン・13. 岡田知也・19. 吉川暢子・14. 黒田勉・15. 妹尾理子・26. 片岡元子</p> <p>教科内容兼任教員41名／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全回の授業に参加するとともに、特に教科別チームの担当を分担し、学生の教材研究を支援する。 	共同
	教材開発の実践と評価	<p>教科教育教員と教科内容教員の共同による授業である。当該教科の基盤となる学問の原理を踏まえた教材開発のあり方を探り、教科固有の見方・考え方を深める教材開発の開発を実践する。</p> <p>共同方式／全15回（全体共同 4回 教科別共同11回）</p> <p>3. 野崎武司・20. 米村耕平／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半2回のオリエンテーションと導入の授業を担い、また最後の2回の成果交流の授業でまとめ役を担う。 ・途中の教科別チームを組織し、チームによる教材開発を促す。 <p>教科教育（保育）関連専任教員／共同15回</p> <p>21. 岡田涼・8. 佐藤明宏・9. 山本茂喜・29. 松島充・12. 松村雅文・11. 笠潤平・25. 鈴木正行・10. 伊藤裕康・28. 中住幸治・18. バテン・13. 岡田知也・19. 吉川暢子・14. 黒田勉・15. 妹尾理子・26. 片岡元子</p> <p>教科内容兼任教員41名／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全回の授業に参加するとともに、特に教科別チームの担当を分担し、学生の教材開発を支援する。 	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 授業力開発コース	教職実践研究Ⅰ（授業力開発）	<p>主に、実習科目における授業実践と授業力開発コースの理論科目とをつなぎ、理論と実践の往還から、各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。学校における授業観察や授業実習の後の理論的分析と省察を通して協議検討し各自の課題の明確化を図る。実践記録を基に、各自の課題に即した学校現場での実習の事前事後の学びを通して課題の解決につながる実践計画への見通しを持てるようにする。初回および最終回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、前期の実習のまとめを行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>7. 野崎武司、22. 植田和也、27. 久米亜弥、24. 大熊裕樹、8. 佐藤明宏、9. 山本茂喜、28. 中住幸治、18. バテン、29. 松島充、25. 鈴木正行、10. 伊藤裕康、11. 笠潤平、12. 松村雅文、19. 吉川暢子、13. 岡田知也、14. 黒田勉、15. 妹尾理子、20. 米村耕平、21. 岡田涼、26. 片岡元子、32. 橘慎二郎、33. 片岡亜貴子、34. 太田隆志、35. 大和田俊、37. 桑原育子／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のオリエンテーションにおいて、専攻全体で、各自の実践課題、前期の実習の意義・目的、実習への取り組み方・実習計画等の確認を行う。 ・授業観察や授業実習の後のリフレクションを通して課題の明確化を図る。 ・実践記録を基に、実習の事前事後における協議を通して、課題解決につながる実践計画の見通しを立てる。 ・課題別グループによる協働活動及び個別の課題設定に応じた活動を行う。 ・前期の学びを総括し、後期の実践課題についての改善プログラムを作成する。 ・最終回に、専攻全体で、各自の実践の経過、前期実習のまとめについて交流する。 	
	教職実践研究Ⅱ（授業力開発）	<p>主に、実習科目における授業実践とその省察に関わる各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。学校における授業観察や授業実習の後の理論的分析と省察を通して協議・検討し各自の課題の明確化を図る。実践記録を基に、各自の課題に即した学校現場での実習の事前事後の学びを通して課題の解決につながる実践計画への見通しを持てるようにする。初回および最終回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、後期の実習のまとめを行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>7. 野崎武司、22. 植田和也、27. 久米亜弥、24. 大熊裕樹、8. 佐藤明宏、9. 山本茂喜、28. 中住幸治、18. バテン、29. 松島充、25. 鈴木正行、10. 伊藤裕康、11. 笠潤平、12. 松村雅文、19. 吉川暢子、13. 岡田知也、14. 黒田勉、15. 妹尾理子、20. 米村耕平、21. 岡田涼、26. 片岡元子、32. 橘慎二郎、33. 片岡亜貴子、34. 太田隆志、35. 大和田俊、37. 桑原育子／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のオリエンテーションにおいては、専攻全体で、各自の実践課題、後期の実習の意義・目的、実習への取り組み方・実施計画等の確認を行う。 ・前期で作成した改善プログラムの実施に関して、実施計画を確認する。 ・実践についての定期的な振り返りを通して、課題や実施内容の修正を行う。 ・課題別グループによる協働活動及び個別の課題設定に応じた活動を行う。 ・後期の学びを総括し、教職実践研究報告のまとめにつなげる。 ・中間まとめとして、専攻全体で、各自の教職実践研究報告の内容や進行状況について交流する。 ・最終まとめとして、専攻全体で、各自の実践の経過、後期実習のまとめ、教職実践研究報告について交流する。実践研究フォーラムへの準備を行う。 	
	学校臨床基礎実習Ⅰ（授業力開発）	<p>連携協力校（主に附属学校）において、学校経営・学級経営・授業経営等の視点から観察実習やシャドウイングを通して、学校教育における課題の現状を把握する。把握した課題に基づいて、課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践を行う（課題解決のため、集中的な関わりが必要な場合、一部集中実習を組み込む場合がある）。予備的試行実践の結果を省察し、実践課題の明確化を図る。課題グループ別に協働活動を組織するとともに、個別の課題設定に応じた活動を行う。</p> <p>巡回指導：7. 野崎武司、22. 植田和也、27. 久米亜弥、24. 大熊裕樹、8. 佐藤明宏、9. 山本茂喜、28. 中住幸治、18. バテン、29. 松島充、25. 鈴木正行、10. 伊藤裕康、11. 笠潤平、12. 松村雅文、19. 吉川暢子、13. 岡田知也、14. 黒田勉、15. 妹尾理子、20. 米村耕平、21. 岡田涼、26. 片岡元子 実習指導：32. 橘慎二郎、33. 片岡亜貴子、34. 太田隆志、35. 大和田俊、37. 桑原育子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。 ・実習指導：実習において、児童生徒の様子の把握・関わり方や授業への参画の仕方について指導する。 	
	学校臨床基礎実習Ⅱ（授業力開発）	<p>連携協力校（主に公立学校）における教育課題の現状について理解を深めるとともに、「学校臨床基礎実習Ⅰ」で予備的に試行実践した課題解決方法に基づいて、連携協力校（主に公立学校）においてさらに試行実践を行い検討する（課題解決のため、集中的な関わりが必要な場合、一部集中実習を組み込む場合がある）。PDCAサイクルによって、課題解決方法の改善点の分析を行う。</p> <p>巡回指導：7. 野崎武司、22. 植田和也、27. 久米亜弥、24. 大熊裕樹、8. 佐藤明宏、9. 山本茂喜、28. 中住幸治、18. バテン、29. 松島充、25. 鈴木正行、10. 伊藤裕康、11. 笠潤平、12. 松村雅文、19. 吉川暢子、13. 岡田知也、14. 黒田勉、15. 妹尾理子、20. 米村耕平、21. 岡田涼、26. 片岡元子 実習指導：32. 橘慎二郎、33. 片岡亜貴子、34. 太田隆志、35. 大和田俊、37. 桑原育子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。 ・実習指導：実習において、児童生徒の様子の把握・関わり方や授業への参画の仕方について指導する。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
授業力開発コース	学校臨床実習Ⅰ（授業力開発）	<p>連携協力校もしくは置籍校において分散型（一部集中型）実習として履修する。授業の現代的課題をテーマに、教育現場を臨的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。担当学級での授業を焦点にした課題発見活動を中心とする。「主体的・対話的で深い学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究を対象とし、1学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした臨床体験記録の作成が求められる。</p> <p>巡回指導：7.野崎武司、22.植田和也、27.久米亜弥、24.大熊裕樹、8.佐藤明宏、9.山本茂喜、28.中住幸治、18.バテン、29.松島充、25.鈴木正行、10.伊藤裕康、11.笠潤平、12.松村雅文、19.吉川暢子、13.岡田知也、14.黒田勉、15.妹尾理子、20.米村耕平、21.岡田涼、26.片岡元子</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。</p>	
	学校臨床実習Ⅱ（授業力開発）	<p>連携協力校もしくは置籍校において分散型（一部集中型）実習として履修する。授業の現代的課題をテーマに、教育現場を臨的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。担当学級での授業を焦点にした課題解決活動を中心とする。「主体的・対話的で深い学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究を対象とし、2学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした臨床体験記録の作成が求められる。</p> <p>巡回指導：7.野崎武司、22.植田和也、27.久米亜弥、24.大熊裕樹、8.佐藤明宏、9.山本茂喜、28.中住幸治、18.バテン、29.松島充、25.鈴木正行、10.伊藤裕康、11.笠潤平、12.松村雅文、19.吉川暢子、13.岡田知也、14.黒田勉、15.妹尾理子、20.米村耕平、21.岡田涼、26.片岡元子</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。</p>	
	授業力開発実習Ⅰ	<p>〔学部卒学生履修〕 連携協力校において分散型（一部集中型）実習として履修する。配属学級での授業を焦点にした課題発見活動を中心としながらも、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、的確な子ども理解に焦点を当てる。それに基づいた基本的な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、1学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした授業実践記録の作成が求められる。</p> <p>〔現職教員学生履修〕 連携協力校もしくは置籍校において分散型実習として履修する。担当学級での授業を焦点にした課題発見活動を中心とする。「主体的・対話的で深い学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、1学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした授業実践記録の作成が求められる。指導的立場の教員を育成する観点から、校内授業研究会の開催に向けての企画と校内交渉に取り組むことが求められる。</p> <p>巡回指導：7.野崎武司、22.植田和也、27.久米亜弥、24.大熊裕樹、8.佐藤明宏、9.山本茂喜、28.中住幸治、18.バテン、29.松島充、25.鈴木正行、10.伊藤裕康、11.笠潤平、12.松村雅文、19.吉川暢子、13.岡田知也、14.黒田勉、15.妹尾理子、20.米村耕平、21.岡田涼、26.片岡元子</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。</p>	
	授業力開発実習Ⅱ	<p>〔学部卒学生履修〕 連携協力校において分散型（一部集中型）実習として履修する。配属学級での授業を焦点にした課題解決活動を中心としながらも、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、的確な子ども理解に焦点を当てる。「主体的・対話的で深い学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、2学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした年間の授業実践記録の作成が求められる。</p> <p>〔現職教員学生履修〕 連携協力校もしくは置籍校において分散型実習として履修する。担当学級での授業を焦点にした課題解決活動を中心とする。「主体的・対話的で深い学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、2学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした授業実践記録の作成が求められる。指導的立場の教員を育成する観点から、校内授業研究会の開催に向けての企画と校内交渉に取り組むことが求められる。</p> <p>巡回指導：7.野崎武司、22.植田和也、27.久米亜弥、24.大熊裕樹、8.佐藤明宏、9.山本茂喜、28.中住幸治、18.バテン、29.松島充、25.鈴木正行、10.伊藤裕康、11.笠潤平、12.松村雅文、19.吉川暢子、13.岡田知也、14.黒田勉、15.妹尾理子、20.米村耕平、21.岡田涼、26.片岡元子</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理検査の理論と実際	<p>特別な教育的ニーズのある子どもを対象とした、代表的な心理検査を取り上げ、検査に関わる倫理、具体的な実施方法、関連する専門的知識の理解と習得をめざす。心理検査としては、WISC-IV知能検査、KABC-II心理教育アセスメント、DN-CASを取り上げる。特別支援教育に関わる心理検査の概要を理解した上で、それぞれの検査に関する背景思想や神経心理学的解釈に必要な基礎的理論について学ぶとともに、検査結果の活用と学校教育に関して理解を深める。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>2. 恵羅修吉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関わる心理検査の概要と求められる倫理について説明する。 ・WISC-IV、KABC-II、DN-CAS検査について、その内容と実施方法について実習を通して修得させる。 ・検査結果に関する神経心理学的解釈について説明する。 <p>5. 中島栄美子／共同5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WISC-IV、KABC-II、DN-CAS検査について、その内容と実施方法について実習を通して修得させる。 ・検査結果に関する神経心理学的解釈について説明する。 ・学校教育に関連した検査結果の活用のあり方について理解を促す。 	共同
特別支援力開発コース コース科目	個別の指導計画と個に応じた支援	<p>特別な教育的ニーズのある子どもに対して「個に応じた支援」を行う意義と必要性、学齢段階で必要となる支援領域・内容、学校・教室等での合理的配慮等環境整備のあり方を理解する。幼児期から青年期までの一貫した支援を進める上で重要なツールとなる「個別の指導計画」および「個別の教育支援計画」「相談支援ファイル」の意義を理解し、作成方法と実施、評価・改善について習得する。「個別の指導計画」の作成事例について知り、グループワークを通じて「個別の指導計画」の作成を演習する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>42. 小方朋子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものつまずきへの気づき、支援が必要となる領域と内容、学級や学校で支援を行う上での配慮事項について解説する。 ・「個別の指導計画」および「個別の教育支援計画」「相談支援ファイル」の意義と内容、活用方法について解説する。 ・23. 山本木ノ実と協働して、個別の指導計画の作成手順、ケース会議の実施、指導の手立ての工夫について演習を行い、各自の成果を発表させ、グループ討議を行う。 <p>23. 山本木ノ実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の指導計画」を立案するために、個のニーズを知り発達課題を捉えた上で、長期・短期の目標を設定すること、個々の指導の手立てを明確にして、支援を具体化すること、および評価の方法・計画について解説する。 ・知的障害およびLD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害について、個別の指導計画の作成事例を示し、その実際について解説する。 ・42. 小方朋子と協働して、個別の指導計画の作成手順、ケース会議の実施、指導の手立ての工夫について演習を行い、各自の成果を発表させ、グループ討議を行う。 	共同
	行動困難と社会性の指導	<p>特別な教育的ニーズのある子どもの行動上のつまずきをどのように理解し、支援するのかについて理解を深める。まず、機能的アセスメントを用いた行動問題の指導と環境設定の方法について学ぶ。次に、社会的スキル訓練の意義と目的について理解するとともに、社会的スキル訓練の内容と方法について学習する。最後に、実践事例をとりあげてグループディスカッションを行い、それまでに学んだ事柄の理解を確実なものにする。</p> <p>分担方式／全15回</p> <p>16. 武蔵博文／単独6回、共同3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動上のつまずきの理解と支援について解説する。 ・機能的アセスメントを用いた行動問題の指導と環境設定について説明する。 ・実践事例をとりあげて、グループディスカッションを行う。 <p>3. 宮前義和／単独6回、共同3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的スキル訓練の意義と目的について解説する。 ・社会的スキル訓練の内容と方法について説明する。 ・実践事例をとりあげて、グループディスカッションを行う。 	オムニバス・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目	特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用	<p>学校園での特別支援教育コーディネーターの役割として、特別な教育的ニーズのある子どもに気づいて学級の中で実態把握をすすめる、集団の中で個の特性への配慮した学級経営・教科指導の在り方を理解する、学級担任と協同して「個別の指導計画」を作成してその実行を支援する、校内委員会を運営して特別支援教育支援員等の校内の資源を活用する、特別支援学校のセンター的機能や教育・福祉・保健・医療等の地域のリソースとの連携をすすめる、保護者との相談をすすめて学校・学級担任との関係を調整し家庭への支援をすすめる等の方法を学ぶ。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>16. 武蔵博文／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する指導支援のあり方について、関係法令、幼稚園教育要領・学習指導要領、通知や報告等から解説する。 ・小中学校での特別支援教育の進捗状況、小中学校の特別支援教育を充実する上での課題、関係機関との連携協力の在り方等について解説する。 <p>・23. 山本木ノ実と協働して、担任の学級経営・教科指導への支援、支援校内委員会の運営、地域の関係機関との連携について演習を行い、各自の成果を発表させ、グループ討議を行う。</p> <p>23. 山本木ノ実／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な教育的ニーズのある児童生徒への具体的な指導や支援について、学級経営や教科指導での工夫や特別な配慮について解説する。 ・校内委員会の設置と運営の仕方、校内の資源を活用した支援体制づくり、地域における関係者や関係機関との連携、保護者相談の進め方について解説する。 <p>・16. 武蔵博文と協働して、担任の学級経営・教科指導への支援、支援校内委員会の運営、地域の関係機関との連携について演習を行い、各自の成果を発表させ、グループ討議を行う。</p>	共同
	言語コミュニケーションの指導	<p>発達障害や知的障害のある子どもの言語能力の獲得とコミュニケーション能力の獲得を促すための指導・支援法について講義する。その際、肢体不自由児や病弱児のコミュニケーションの問題にも触れるようにし、特別支援教育の対象となる障害のある子どもたちに対する言語指導、コミュニケーション指導の重要性を理解するとともに教育実践に応用することができる力量を養う。</p> <p>言語・コミュニケーション指導における基礎知識（言語病理学の基礎知識、言語発達の道筋、音素・音韻認識と聴覚的理解力、語用論とその障害、発達障害児・知的障害児の言語・コミュニケーションとその他の認知能力、発達障害児・知的障害児の言語・コミュニケーションの課題等）についての講義と実践のレポートをもとに議論する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>43. 坂井聡、16. 武蔵博文</p>	共同
	特別支援教育のための生理・病理	<p>病弱児特別支援教育の対象となる疾患（例えば、血液疾患、心疾患、腎疾患、神経疾患等）や発達障害（自閉スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、学習障害、発達性協調運動障害等）に対する原因や病態などの基礎的知識及び各疾患に対する現在の医学的治療法や対処法、学校教育現場における配慮点について学ぶ。さらに、近年発達障害においてよく使用されている薬剤についてもその作用と副作用について理解する。また最近話題になっている愛着障害、適応障害についても学習し、学校教育における問題点、その対応についてグループで意見を出し、話し合う。特別支援教育の中でも病弱児や発達障害児への支援において医療と教育の連携は必須であり、その重要性について考える。</p> <p>44. 西田智子</p>	単独
	特別支援教育の理論と実践	<p>特別支援力開発コースのコース科目での学びをもとに、学生各自の実践課題に基づいて、学びを深めて探究を進める。知的障害等の特別な支援を必要とする児童等への特別支援教育のシステム、アセスメント、個別の指導計画の作成と活用、指導支援の実行、評価と改善、支援体制の構築等についての知見を深め、今日的な課題である特別支援教育の在り方、学校教育現場における具体的な課題について学修する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>16. 武蔵博文、2. 恵羅修吉、3. 宮前義和、23. 山本木ノ実、5. 中島栄美子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のオリエンテーションは、受講者全員で行い、学生各自の実践課題・探究課題や取り組み方を確認する。 ・特別支援教育に係る学校現場での具体的な課題について、学生自ら学びを深め探究を進める。 ・学生各自の探究の成果をまとめて、受講者全員で成果の交流を行う。 	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別支援力開発コース コース科目	障害に対する心理学的理解と支援	<p>知覚・認知・記憶・運動の基盤である神経系の発達と、その途上における障害の出現様態について多角的なアプローチをすることで、障害の出現と推移に関するメカニズムについて理解する。特に、定型発達からみた障害の理解と障害からみた定型発達理解の両方向の視点を重視する。学びのテーマとしては、①知的障害を含む発達障害児の心理機能に関する心理学的、神経学的、生理学的基盤について理解し、②認知機能の障害に関わる心理学的知識を指導や支援に活用するあり方を構想できるようになる。さらに上記の心理学的な知見を踏まえ、③特別な支援を要する児童生徒の保護者に対する心理的援助のあり方について理解する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>2. 恵羅修吉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育における根拠に基づく教育実践について解説する。 ・知的障害を含む発達障害の認知特性について視覚系を中心に説明する。 <p>5. 中島栄美子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する児童生徒の保護者に対する心理的援助のあり方について説明する。 	共同
	特別支援教育の支援技術	<p>障害者の権利に関する条約を批准したことにより、特別支援教育における支援技術の導入は必須になっている。本授業では、支援技術の導入と合理的配慮を中心に、特別支援学校や特別支援学級、通常の学級において支援技術を導入していくことができるようにする。具体的には次のような項目について論文や実践記録を参考に、受講生のプレゼンテーションを中心に議論するようにする。</p> <p>障害者の権利に関する条約、支援技術とは、合理的配慮の提供、支援技術と言語、支援技術とコミュニケーション、支援技術と補助代替コミュニケーション、支援技術と構造化、支援技術とデジタル教科書、支援技術とデジタル教材、支援技術導入の課題、支援技術と制度、以上の具体的な内容を検討することで、児童生徒の実態に応じた活用ができるようにする。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>43. 坂井聡、16. 武蔵博文</p>	共同
	教職実践研究Ⅰ（特別支援力開発）	<p>主に、実習科目における教育実践と特別支援力開発コースの理論科目をつなぎ、理論と実践の往還から、学生各自の実践課題の意識化を図る。実習での事例に関して、グループ協議における事例検討会を実施することで、特別な教育的ニーズのある子どもを対象としたアセスメントと指導のあり方について理解を深める。事例に関するアセスメントと指導を理論的に分析し、省察することで、その内容に関する分析を深めるとともに、各自の実践課題を明確にする。初回および最終回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、前期の実習のまとめを行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>2. 恵羅修吉、16. 武蔵博文、3. 宮前義和、23. 山本木ノ実、5. 中島栄美子／共同15回 実習指導：36. 藤澤麻子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のオリエンテーションにおいて、専攻全体で、各自の実践課題、前期の実習の意義・目的、実習への取り組み方・実習計画等の確認を行う。 ・グループ協議による事例検討会のスーパーバイズを行う。 ・事例検討会での協議方法について実践的に学ぶ機会とする。 ・前期の活動を総括させ、後期の実践課題に関して改善プログラムの作成を促す。 ・最終回に、専攻全体で、各自の実践の経過、前期実習のまとめについて交流する。 	
	教職実践研究Ⅱ（特別支援力開発）	<p>主に、実習科目における教育実践と特別支援力開発コースの理論科目をつなぎ、理論と実践の往還から、学生各自の実践課題の意識化を図る。複数教員による集団指導とグループ協議を通して学生各自の実践課題を進展させるとともに、個々の実践課題を深める個別の指導を行う。実習での事例に関して、グループ協議における事例検討会を実施することで、特別な教育的ニーズのある子どもを対象としたアセスメントと指導のあり方について理解を深める。事例に関するアセスメントと指導を理論的に分析し、省察することで、その内容に関する分析を深める。その成果は、中間まとめと最終まとめとして専攻全体の発表会で報告し、最終的には教職実践研究報告としてまとめる。教職実践研究フォーラムへの準備を行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>2. 恵羅修吉、16. 武蔵博文、3. 宮前義和、23. 山本木ノ実、5. 中島栄美子／共同15回 実習指導：36. 藤澤麻子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のオリエンテーションにおいては、専攻全体で、各自の実践課題、後期の実習の意義・目的、実習への取り組み方・実施計画等の確認を行う。 ・グループ協議による事例検討会のスーパーバイズを行う。 ・事例検討会での協議方法を修得し発展させる。 ・個別の実践課題に対応した個別指導を並行し、教職実践研究報告の作成に導く。 ・最終まとめとして、専攻全体で、各自の実践の経過、後期実習のまとめ、教職実践研究報告について交流する。実践研究フォーラムへの準備を行う。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別支援力開発コース	学校臨床基礎実習Ⅰ（特別支援力開発）	<p>連携協力校(附属特別支援学校)において、小学部・中学部・高等部の内特定の学部の学級経営・学習指導等を継続して観察実習し、特別支援学校における課題の現状を把握する。把握した課題に基づき、課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践を行う。予備的試行実践の結果を省察し、実践課題の明確化を図り、個別の課題設定に応じた活動を行う。</p> <p>巡回指導：2. 恵羅修吉、16. 武蔵博文、3. 宮前義和、23. 山本木ノ実、5. 中島栄美子 実習指導：36. 藤澤麻子</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。 ・実習指導：実習において、児童生徒の様子の把握・関わり方や授業への参画の仕方について指導する。</p>	
	学校臨床基礎実習Ⅱ（特別支援力開発）	<p>学校臨床基礎実習Ⅰ（特別支援力開発）を踏まえ、連携協力校(附属特別支援学校)において、特定の学部の学級経営・学習指導等を継続して観察実習し、特別支援学校における課題の現状を把握する。把握した課題に基づき、課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践を行う。予備的試行実践の結果を省察し、実践課題の明確化を図り、個別の課題設定に応じた活動を行う。</p> <p>巡回指導：2. 恵羅修吉、16. 武蔵博文、3. 宮前義和、23. 山本木ノ実、5. 中島栄美子 実習指導：36. 藤澤麻子</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。 ・実習指導：実習において、児童生徒の様子の把握・関わり方や授業への参画の仕方について指導する。</p>	
	学校臨床実習Ⅰ（特別支援力開発）	<p>特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する教育現場を臨床的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。特別支援教室「すばる」を実習の場として、来談者への教育相談及び個別指導を体験したうえで、部分的に発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標の見通しを持つことができる。</p> <p>巡回指導：2. 恵羅修吉、16. 武蔵博文、3. 宮前義和、23. 山本木ノ実、5. 中島栄美子 実習指導：36. 藤澤麻子</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。 ・実習指導：実習において、児童生徒の様子の把握・関わり方や授業への参画の仕方について指導する。</p>	
	学校臨床実習Ⅱ（特別支援力開発）	<p>特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する教育現場を臨床的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。学校臨床実習Ⅰを発展させる内容で、特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する基礎的な実習を行う。特別支援教室「すばる」あるいは連携協力校等を実習の場として、来談者への教育相談及び個別指導を体験したうえで、部分的に発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標の見通しを持つことができる。</p> <p>巡回指導：2. 恵羅修吉、16. 武蔵博文、3. 宮前義和、23. 山本木ノ実、5. 中島栄美子 実習指導：36. 藤澤麻子</p> <p>・巡回指導：定期的な巡回と実習日ごとの面談により、実践への参画や参観について助言・指導する。 ・実習指導：実習において、児童生徒の様子の把握・関わり方や授業への参画の仕方について指導する。</p>	
	特別支援教育指導実習Ⅰ	<p>特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する実習を行う。特別支援教室「すばる」を実習の場として、来談者への教育相談、コンサルテーション、スーパーバイジング及び個別指導を体験したうえで、発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標を設定することができる。</p> <p>スーパービジョン：2. 恵羅修吉、16. 武蔵博文、3. 宮前義和、23. 山本木ノ実、5. 中島栄美子</p> <p>・スーパービジョン：実習での個別指導の事前・事後カンファレンスにおいて、指導内容・方法と、その評価・改善について助言・指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
別 支 援 力 開 発 コ ー ス 科 目	特別支援教育指導実習Ⅱ	<p>「特別支援教育指導実習Ⅰ」を発展させる内容で、特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する実習を行う。特別支援教室「すばる」あるいは連携協力校等を実習の場として、来談者への教育相談、コンサルテーション、スーパーバイジング及び個別指導を体験したうえで、発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標を設定することができる。</p> <p>スーパービジョン：2. 恵羅修吉、16. 武蔵博文、3. 宮前義和、23. 山本木ノ実、5. 中島栄美子</p> <p>・スーパービジョン：実習での個別指導の事前・事後カンファレンスにおいて、指導内容・方法と、その評価・改善について助言・指導を行う。</p>	